特255
499

0025828000
0025828-000

特２５５－４９９

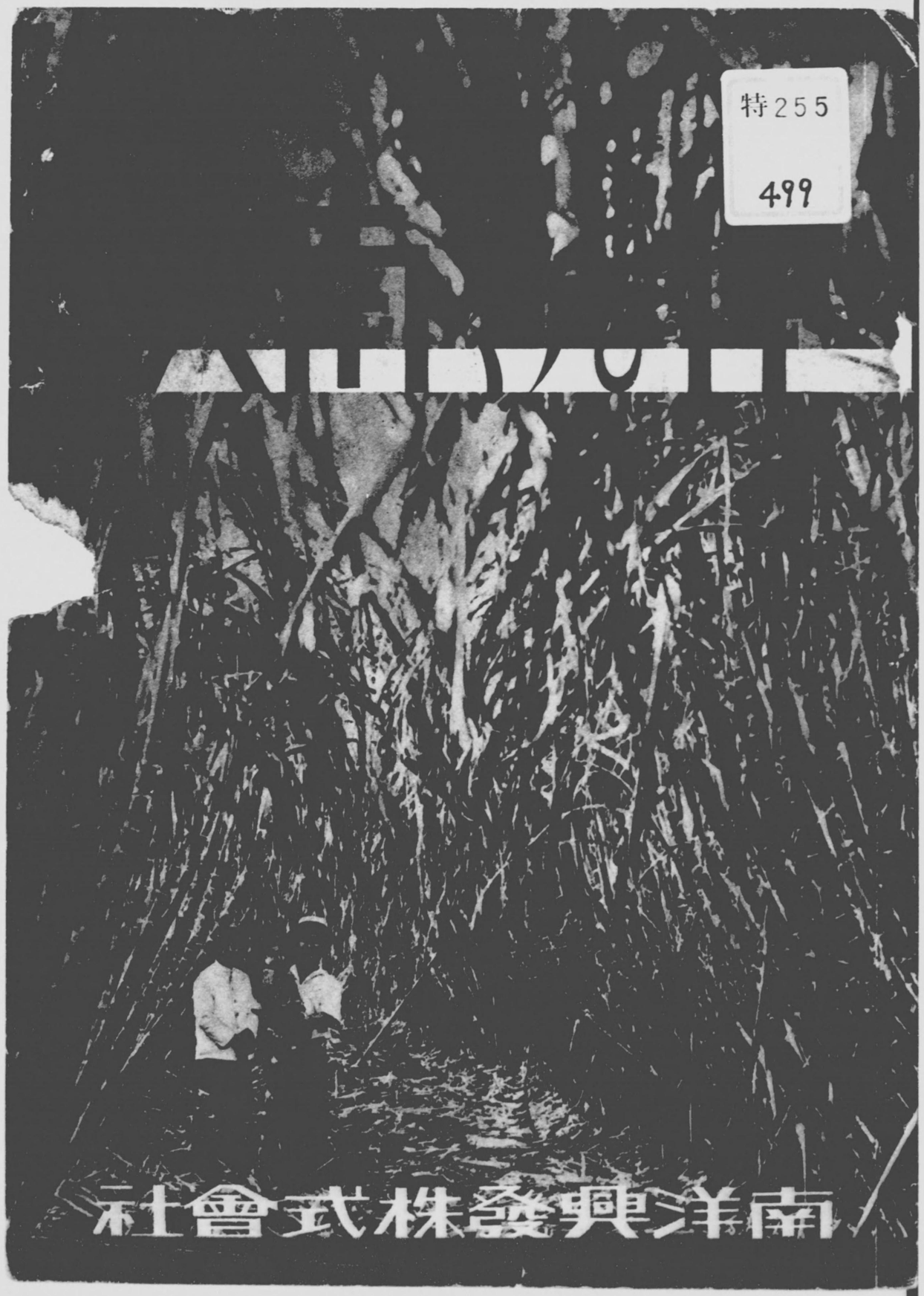
伸びゆく“南興”

南洋興発

昭和１５

ADF

南洋興發株式會社



特255
499

特255
499

伸びゆく"南興"

南洋開拓と
南洋興發株式會社の現況

昭和十五年九月

南洋興發及關係會社事業一覽

- 南洋興發本社
- 同事業地及事務所
- 南興合名本社
- 同事業地及事務所
- S・A・P・T本社
- 同事業地及事務所
- 南太平洋貿易本社
- 同事業地及事務所
- 南興水産本社
- 同事業地及事務所
- 日本眞珠本社
- 同事業地及事務所
- 海洋殖産本社
- 同事務所
- 南洋石油本社
- 同事務所
- 鵬南運輸本社
- 南方産業本社
- 同事務所
- 南洋特殊繊維本社
- 同事業地及事務所

中華民国
上海
香港
台湾
基隆
高雄
海南島
仏領印度支那
サイゴン
クワンバ
馬來半島
シンガポール
スマトラ島
クチン
ポンティアチック
バタビヤ
スマラン
ジャバラス
島バヤジ
島オネルボ
ンシマルセンバ
ルソン島
ラニマ
新南群島
比律賓
島ルーホボ
島オナダンミ
ダバオ
メナド
トロモンマ
セレベス島
ハルマヘラ島
テナルタ
セラム島
ナイボンア
デリー
葡領チモール
島ルーモチ
ヤリラトスーオ
海ラフラア
ドボ
島ーロア
ミモ
マンクワリ
ヤップ島
島オラパ
島ーユリパ
島イペコト
マリアナ群島
島ンカパ
島ンパイサ
島ンアニテ
島ンガーギアー
島タロー
島ムアクー
島群洋南
島群ルヤシーマ
島クッラト
島クッチナ
島ルーゴス
島ペナポ
島イサク
島トールヤ
島ルウナ
島群ンリロカ
(治統任委ヤリラトスーオ)
(ドンラージュニ浸英)
(治統任委)
島群クルマスビ
アニギーユー
(アプパ)
モレスビー
木曜島
ニューク半島
ビスマルク諸島

★ 燐礦
★ 燐礦
★ 燐礦
★ ジュートラミー
▲ 椰子園 コプラ貿易 海運過商
▲ 椰子園
▲
★ ☆
● ★ 製材
● 貝殊貝
☆ 棉花 ジュート
☆ 棉花 ジュート 陸稻其他
☆ ダマル樹脂
★ 甘蔗 穀物 製糖 酒精 牧畜 燐礦 無水酒精 ジュート 燐礦 林産 畜産 精糖 穀物 甘蔗 穀物 燐礦
★ 甘蔗 穀物 燐礦
★ 甘蔗 穀物 燐礦 ジュート 燐礦 林産 畜産 精糖 穀物 甘蔗 穀物 燐礦
★ 甘蔗 穀物 無水酒精 ジュート カラオ 産
★ 無水酒精 ジュート カラオ
● 水産
● 水産
● 水 海産 造船 運産 ジュート カラオ 土地 建築 土地 埋立 水産
● 水 海産 造船 運産 ジュート カラオ 土地 建築 土地 埋立 水産
★ コーヒー 椰子 茶 キナ カカオ 石油 海産 棉花 油 ナオム 蓮易子

日本
中華民国
タイ
イギリス
アメリカ
フランス
オランダ
ポルトガル

南洋開拓と
南洋興發株式會社の現況

南洋興發本社（サイパン）

目次

I・當社成立の經過……（六）
II・資本と株式……（七）
III・當社の目的……（八）
IV・當社の事業とその地域……（九）
（イ）事業の種類……（九）
（ロ）事業地域……（一〇）
V・事業概況……（一一）
A 內南洋事業……（一一）
1・南洋群島概觀……（一一）
2・製糖業……（二一）
3・酒精及び無水酒精事業……（二四）
4・燐礦事業……（二五）
5・拓殖移民事業……（二五）
6・群島移住者に對する諸施設と公共事業……（二六）
7・內南洋關係諸事業……（三八）
I 漁業及び同加工業（南興水產株式會社）……（三八）
II 石油供給業（南洋石油株式會社）……（三九）
III 貨物運輸業（鹵南運輸株式會社）……（三九）
IV 土地埋立業（南方產業株式會社）……（四〇）
V ジュート栽培業（南洋特殊纖維株式會社）……（四〇）
B 外南洋事業……（四一）
1・概說……（四一）
2・ニューギニア事業（南洋興發合名會社）……（四三）
3・セレベス事業（南太平洋貿易株式會社）……（五三）
4・蘭領チモール事業（S・A・P・T）……（五五）
5・眞珠貝採取及び加工業（日本眞珠株式會社・海洋殖產株式會社）……（五六）
6・新南群島事業……（五八）
VI・結語……（五九）
・當社及關係會社事業一覽圖……（卷頭）
・當社及關係會社事業一覽表……（卷末）
・當社の役員……（表紙の二）
・當社の事務所及び出張所……（表紙の三）

グラフ

・內南洋事業グラフ……（一三—二〇）
・外南洋事業グラフ……（二九—三六）
・南洋風物詩……（四五—五二）

南洋興發株式會社社長
松江春次

南興精神綱領

一、皇室を敬ひ國體を重んずべし
一、松江社長の開拓精神を永遠に傳ふべし
一、純忠至誠の大和魂を以て南洋產業の興隆に力むべし
一、家族主義を基調とし同心協力すべし
一、質實剛健堅忍不拔以て勤勞すべし

I・當社成立の経過

大正三年第一次歐洲大戰の勃發と共に、我國は直ちに聯合國側に參加して、獨逸領に屬してゐた南洋群島（マリアナ、カロリン、マーシャル）を占領し、之に軍政を施いた。當時、內地財界は頗る好況を呈してゐたので、此の好況の波に乘り、大正四年から七、八年にかけ此の新占領地に渡航して、種々の事業を企てるものが續出した。ところが之等の事業は何れも堅實性を缺いてゐた爲に、大正九年三月の恐慌襲來と共に一溜りもなく潰滅してしまひ、巨額の投資を空に歸せしめてしまつた。而してこの恐慌の犧牲となつたが、群島を今日の殷盛に導く尊い礎となつたものに、西村拓殖株式會社と南洋殖產株式會社とがある。此の兩社こそ當社の成立に最も關係の深い會社であつた。

抑、この兩會社は大正六年頃から相前後してサイパン島で甘蔗栽培に依る製糖を目論み、蔗作に必要な移住者を內地から招致し、諸般の設備を整へて事業を開始したのであるが、それが前述の如くに失敗に歸した原因は

一、舊式の赤糖工場であつた爲に生產費が嵩んだこと

二、製品が外國領土の生產物として關稅を賦せられたこと

三、初めから資金難に苦しみ思ふやうに活動が出來なかつたこと等にあつた。

之より先き原料難に苦んでゐた臺灣の諸製糖會社は、南洋群島にその事業を擴張しようとして夫々社員を派遣し、調査を行つた。が、前記の事情と更に島の可耕地が狹少なこと、勞働者の招致に困難なこと、其他の理由から大規模工場の建設に不利であり、群島で事業を經營することは困難であるといふ事由で、各社は何れも南洋群島への進出に對して二の足を踏んでゐたのである。そこへ恐慌が起つた爲に臺灣各社は最早自己の本城を死守するに忙がしく、南洋群島を顧みる餘裕を失つてしまつたのである。

斯うして前記二社が招致した約一千名に近いサイパン島の移住者は糊口の途を絕たれ、加ふるに群島は貝殼蟲のために椰子の大被害を蒙り、在來島民もその主食物に事を缺くといふ慘狀に陷つてしまつた。隨つて之等全群島在住民の窮狀を救濟する爲には、西村拓殖と南洋殖產兩會社の事業に活を入れるか、或は全然新事業を起すか何れかに依らなければならぬ事態となつた。

而も、當時の群島は內地に於ても頗る不評であつた。即ちこのやうに產業の成績が擧がらぬ上に面積の狹少な島嶼に每年數百萬圓の國帑を投じなければならぬといふことは非常な國家的損失である、寧ろ國際聯盟に返却してしまふ方が國家の爲に有利であるといふ所謂群島返還論さへ持ち上がつたのである。

右のやうな事情から、群島を此儘放置して置くことは委任統治の成績にも關はり、惹いては重大な社會問題を誘發する虞れがあつた。そこで時の群島防備隊民政部長、後初代の南洋廳長官となつた手塚敏郎氏は之が救濟策に奔走してゐたところ、偶々新高製糖の常務を辭した松江春次が新式糖業經營の見地から南洋糖業の調査を行つた報告を聞き非常に贊同せられ、直ちに東洋拓殖株式會社の石塚總裁に話を進めた結果、遂に東洋拓殖が松江の計畫を基礎に群島の積極的救濟に當ることゝなつたのである。

ところで東洋拓殖としては此の救濟には多大の犧牲を拂はねばならないので初めは事業の着手迄には尙相當時機を待つ見解であつた。が、前述のやうに事態は頗る切迫し遷延を許さないものがあつたので、同社は南洋廳の意を諒とし、早急に事業著手の方針に決し、取敢えず食糧米を現地に送り、饑餓移民を救濟すると共に、西村拓殖、南洋殖產兩會社の權利を繼承して資本金參百萬圓の南洋興發株式會社を創立し、其の經營一切を松江に委ね、以つて群島の甦生を目指したのである。時に大正十年十一月であつた。

II・資本と株式

前述のやうに、西村拓殖及び南洋殖產兩會社の事業を繼承して大正十年十一月資本金三百萬圓を以つて創設された當社の、資本的發展は次の如くである。

一、西村拓殖は公稱資本金五百萬圓、內拂込百五十萬圓であつたが、事業蹉跌の結果大正十年十一月五十萬圓（全額拂込）に減資し、之を南洋興發株式會社と改稱し、同時に南洋殖產の事業一切を金五十萬圓（內三十萬は株式、二十萬は現金交附）で買收し、之に東拓の新規投資二百二十萬圓を加へて、資本金三百萬圓全額拂込の新會社とした。

資本金三百萬圓（全額拂込）總株數　六萬株

內譯

金二百二十萬圓　四萬四千株（優先株）東洋拓殖の新規投資

金五十萬圓　一萬株　西村拓殖繼承

金三十萬圓　六千株　南洋殖產買收費五十萬圓の內株式を以て交附分

即ち、當社の創立當時の新規資本は僅かに東拓投資の二百二十萬

圓であつて、しかも此の内から南洋殖產買收金として現金で二十萬圓を交附し又西村拓殖の舊債を引受けた關係上殘餘幾許もないことゝなつたので、更に東拓から二百餘萬圓の長期借入を爲し、此の資金を以つてサイパン島の事業に着手したのである。

一、西村拓殖と南洋殖產を繼承した舊投資一萬六千株は非優先株式だつたので、之を優先株式と同一内容とするために昭和三年三月資本金を三百萬圓から一旦二百六十萬圓（全額拂込）に減額した。

一、昭和五年四月、四百四十萬圓の增資を行ひ、資本金を七百萬圓（全額拂込）とした。右は昭和三年テニアン島の事業開始と共に同地に第二製糖工場を建設した際、所要資金の大部分を借入金に依つて賄つたのでその返濟を行つたものである。

一、昭和八年三月社業の發展に伴ひ一擧一千三百萬圓の增資を行ひ公稱資本金は二千萬圓となつた。

一、内外兩南洋に於ける諸事業の發展に伴ひ昭和十二年六月の定時株主總會で倍額增資を行ふことゝなり、玆に公稱資本金四千萬圓（内拂込資本金二千五百萬圓）株式總數八十萬株となり今日に及んでゐる。

Ⅲ・當社の目的

當社の目的を述べれば次の如くである。

(イ)南洋に於ける拓殖事業の經營
(ロ)前號の事業經營の爲め南洋に於て土地所有權、地上權、借地權、其他土地の利用に關する權利を取得すること
(ハ)生產物の加工販賣竝に物品賣買業
(ニ)各種鑛物の採掘製煉竝に其賣買
(ホ)船舶及南洋に於ける鐵道運送業
(ヘ)南洋に於ける金融業
(ト)南洋に於ける電氣及製氷の供給
(チ)前各號に附帶する事業
(リ)前各號と同種の事業を目的とする他會社の株式引受及取得

（當社定款による）

Ⅳ・當社の事業とその地域

(イ)事業の種類

當社は嘗つて經濟的には殆ど無價値と考へられてゐた南洋群島に大正十年以來開拓の歩を進め、群島の新富源を開發し、之に多數の移住者を送つて此の新天地に富裕な農村を建設した。而して當社は昭和六年以來更にこの群島に溢れる餘力を以つて外南洋に進出し、各種の事業を興して和蘭、葡萄牙等の領有國との相互的經濟福祉の增進を圖り、或は又外南洋の本邦事業家に經濟的援助を行ふ等、頗る廣汎な事業を行つてゐる。當社竝に主要關係會社の事業を列擧すれば次の如くである。

一、**拓植移民**——土地の開墾經營、移植民及び之に伴ふ萬般の社會的施設
一、**製　糖**——甘蔗栽培、工場、鐵道、倉庫、棧橋、船舶、造林、牧畜
一、**酒　精**——糖蜜、酒精工場、混成酒
一、**無水酒精**——甘蔗栽培、糖蜜、無水酒精工場
一、**燐　礦**——採掘、乾燥工場、鐵道、倉庫、棧橋
一、**水　產**——漁撈、鰹節工場、製氷工場、罐詰工場（南興水產株式會社）
一、**石油供給**——貯油タンク、油槽船（南洋石油株式會社）
一、**貨物運輸**——船舶、艀（鵬南運輸株式會社）
一、**土地埋立土木建築**——浚渫船に依る埋立、普通埋立、土木建築工事請負（南方產業株式會社）
一、**黄麻**——農園、加工工場（南洋特殊纖維株式會社）
一、**ダマール**——ダマール樹脂林の經營（南洋興發合名會社）
一、**棉花、黄麻**——棉花農園、繰綿工場、黄麻農園（右同）
一、**コプラ**——椰子園經營、コプラ貿易（南太平洋貿易株式會社）
一、**珈琲、護謨、其他の熱帶作物**——農園經營（S・A・P・T）
一、**眞珠貝採取**——眞珠貝採取船及び運搬船の經營、眞珠貝の輸出及び國内供給（日本眞珠株式會社）
一、**眞珠貝加工**——眞珠貝加工工場（海洋殖產株式會社）
一、**貿　易**——蘭領印度大東諸地方及び葡領チモール等との貿易（S・A・P・T及び南太平洋貿易株式會社）
一、**海　運**——パラオ、ニューギニア、ハルマヘラ、セラム、セレベス、チモール各地間及び沿岸航海、造船

（S・A・P・T、南太平洋貿易及び南洋興發合名會社）

一、其　他――各種食糧作物の栽培、輕量木材バルサの試作及び造林、各種鑛物の試掘及び起業計畫

（ロ）事業地域

以上を地域別に列擧すれば次の通りである。

內南洋

サイパン　甘蔗栽培、製糖、糖蜜、酒精、燐礦、水產
テニアン　甘蔗栽培、製糖、糖蜜、酒精、無水酒精、燐礦
ロタ　甘蔗栽培、製糖、糖蜜、燐礦、黃麻（ジュート）、サイザル、蓖麻、デリス其他
アギーガン　甘蔗栽培
ポナペ　甘蔗栽培、無水酒精、黃麻（ジュート）、カラオ、水產
クサイ　無水酒精（計畫中）、黃麻（ジュート）、カラオ
トラック　水產
パラオ　水產、海運、造船、鐵工所、土地埋立、土木建築、黃麻（ジュート）、カラオ
ペリリユー　燐礦
トコベ　燐礦

外南洋

蘭領ニューギニア　ダマール樹脂採取、棉花栽培、黃麻（ジュート）栽培、緬羊試育、其他雜作栽培（南洋興發合名會社）
セレベス　椰子園經營、其他護謨カポックの栽培、コプラ貿易、海運通商（南太平洋貿易株式會社）
葡領チモール　珈琲、護謨、カヽオ、キナ、茶、椰子、棉花（計畫中）、石油　其他礦物（計畫中）、貿易、海運（S・A・P・T）
アラフラ海　眞珠貝採取（日本眞珠株式會社）
ハルマヘラ　黃麻（ジュート）、苧麻（ラミー）の委託栽培
新南群島　燐礦採掘

V・事業概況

Ⓐ內南洋事業

1・南洋群島概觀

南洋興發株式會社パラオ事務所

當社の內外兩南洋に亘る事業地中、所謂內南洋と呼ばれる南洋群島は、世界大戰の結果我が委任統治に歸したものであつて、此の中に包括されてゐる一千四百餘の夥しい島嶼は、我國の直南略一千浬から二千浬に及ぶ赤道以北の太平洋上に散在してゐる。卽ちマリアナ、カロリン、マーシャルの三群島であつて、海面上の擴がりは東西四千粁、南北二千粁といふ頗る廣汎な地域を占めてゐる。

本群島は北に小笠原、硫黃列島を控へて之と地質的脈絡を結び、南は赤道を距ててニューギニア及びビスマルク、ソロモンの二群島に面し、西はフイリツピン群島及びモルツカス諸島に對し、東は東經百七十五度の線によつてポリネシヤと分たれ、近くは英領ギルバート島、遠くは米領ハワイ及び英領ファンニング島等に對してゐる。

島嶼の數に比してその面積は僅かに二千二百方粁（略我が東京府程度）に過ぎないが、地質は大體富士火山脈系統の火山性隆起珊瑚礁からなり、窒素、石灰分、燐酸分が豐富であつて、地味は甚だ肥沃である。而も四季を通じて赤道の陽光と、全群島を通じ一箇年三千粍乃至五千粍に及ぶ豐富な雨量に惠まれてゐるので、農企業には絕好である。

氣溫は年平均攝氏二十七度程度であつて、四時所謂純海洋性氣候を呈し、日々定時的に壯絶な南洋特有のスコール雨が訪れ、清涼な海風が綠草を戰がすので、その快味言語に絕するものがある。又南洋群島では一年が雨期と乾燥期とに分れ、各地によつて多少の相違があるが大體七月から十一月迄を雨期として降雨が多く、此の期間は作物の耕種と成長とに適し、殘餘の乾燥期には收穫と工場作業に適してゐる。隨つて此の爲に事業の遂行上受ける利益は甚大であつて、實に天空萬里の南洋事業に對する天與と云はなければならない。

全群島の人口は邦人、島民を合して十二萬餘であつて、一方粁當りの人口密度は約五十五人を示してゐる。現在群島に在住する邦人の數は七萬二千を算し、農、工、鑛、商、水產、其他に從事してゐる。島民にはカナカ、チヤモロの二種族があり、その數五萬餘を算する。前者は固有種族であつて、後者は日本統治以前の歐洲領有國人（主としてスペイン人）との混血種族である。チヤモロ族は多く洋式の生活を營んでをり、今日尙裸身跣足のカナカ族に比較する時は遙かに生活程度が高い。性質は何れも溫厚であつて、主としてローマン・カトリツク敎を信奉してゐる。たゞ從來豐富な天與に甘んじて、永い間惰眠飽食の自然生活を送つた慣習上、今日に於いても概して懶惰な自然生活の域から脫し切れないが、最近では南洋官民の努力と敎育の普及によつて漸次勞働を行ふやうになつてゐる。

群島の貿易は、產業の發展と邦人の增加とによつて逐年躍進の一路を辿り、昭和十二年度に於いて既に移輸出總額三千八百萬圓、移輸入總額二千三百萬圓を算へてゐる。移輸出品の主なるものは當社の砂糖を大宗として其他、燐礦、鰹節、コプラ及び酒精、無水酒精であり、移輸入品は米穀、其他食糧品、煙草、車輛、船舶、機械、布帛、木材等が最も多い。移輸出入先は內地が殆ど大部分で、その他米領グアム島、英領ギルバート島、蘭領ニューギニア等へ少量の雜貨を輸出し、又印度支那から米穀、蘭領セレベス、英領ギルバート島、米領グアム島等から少量のコプラ、雜貨等を輸入してゐる。

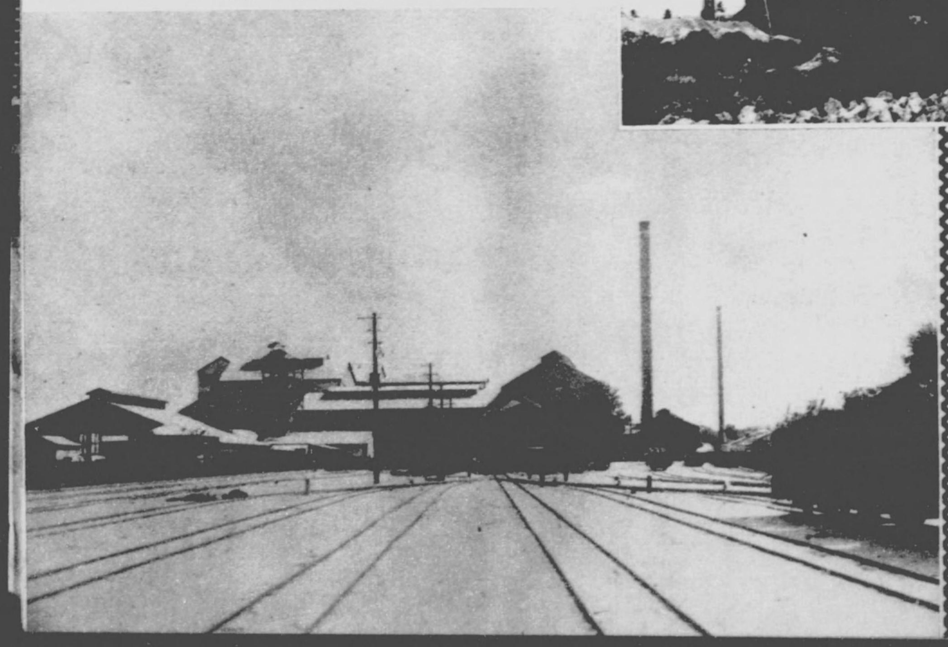
南洋群島は遠く我が內地を距たり、又廣く海上に擴がつてゐるので離島間の交通は概して不便であるが、島內の道路は發達し、就中サイパン、パラオ等では幅員七米以上の道路が延長二十數粁に及びこれを疾驅する自動車の數も二百臺以上にのぼつてゐる。

內地との交通には從來から日本郵船の月五回乃至八回の定期航路があり、尙ほ最近では大日本航空會社の一ケ月二回往復の定期航空路が開かれた。前者に依れば横濱（又は神戸、門司）から四晝夜乃至五晝夜でサイパン、テニアン、ロタに達し、更に三四晝夜を經てポナペ（東廻り）或はパラオ（西廻り）に達することが出來る。又後者に依れば横濱、サイパン間は十時間、サイパン、パラオ間は七時間で達せられる。又各島間及び外南洋間には命令定期船や當社の社船があつて極力交通の不便を補ふと共に、連絡運輸の任に當つてゐる。

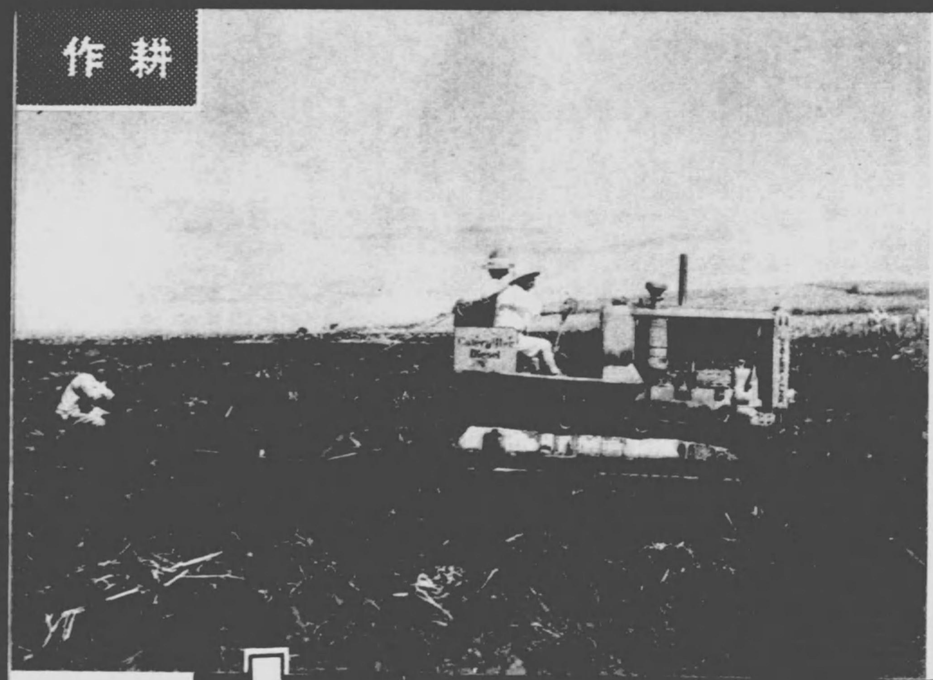
内南洋事業グラフ

場工精酒ンアニテ（左）　所製製ンアニテ（上）

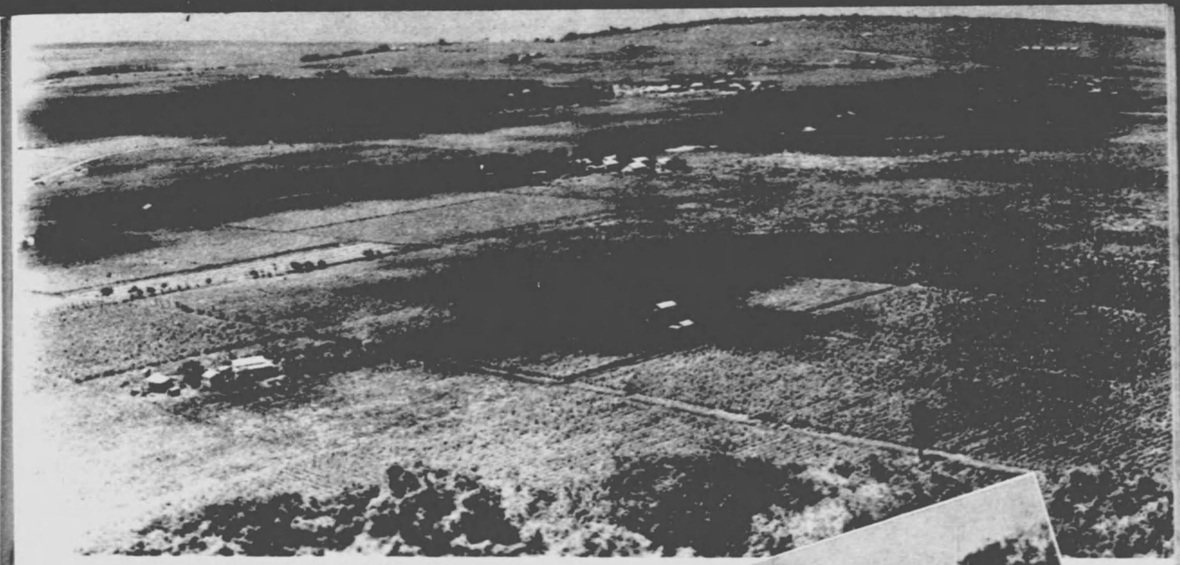
サイパンの酒精工場



部一の内構所製製ンパイサ



工場へ



場農大ンアニテるせ敵倒

場農の時當拓開

一望數千町歩の蔗園

農場

砂糖が出來るまで

製糖

（1）農場から運ばれた甘蔗は、まづ運搬室で、ウヰツクス式運搬機によつて掻き卸され、コンヱーヤーによつて壓搾室へ送られる。

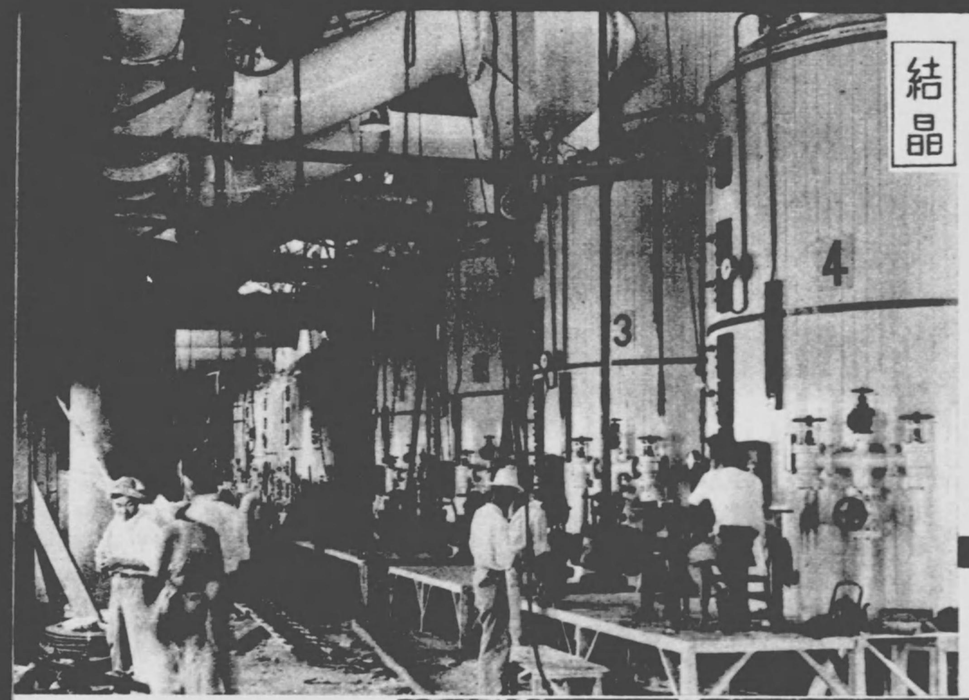
（2）壓搾室には、甘蔗裁斷機（ナイフ）壓碎機（クラッシャー）、細裂機、壓搾機（ミル）等があり、これらの機械を通る間に甘蔗は細かく裂まれ、壓搾されて、どろどろの甘い糖汁が得られる。糖汁は清淨室へ送られ、搾り殼は、輸送機によつて汽罐室へ運ばれて燃料として有效に使用される。

（3）清淨室には、糖汁加熱機、糖汁壓濾機、四重效用罐等がある。こゝでは糖汁が煮沸殺菌され、夾雜物が濾過された後、四重效用罐によつて濃縮されて、結晶室へ送られる。

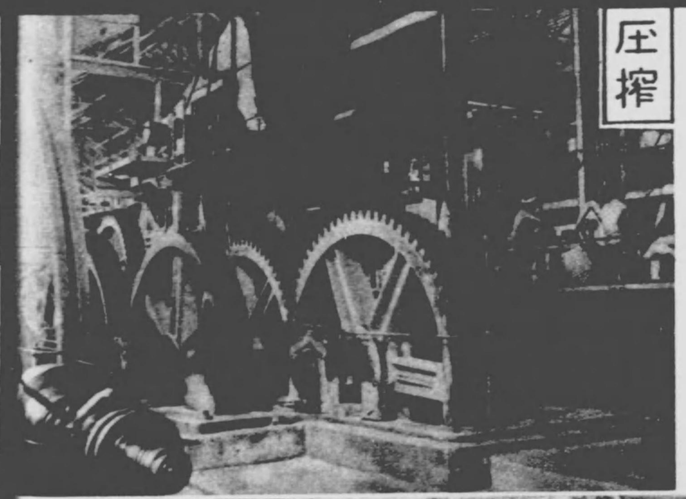
（4）結晶室には結晶罐、結晶機がありこゝで糖汁は『白下（しろした）（マスキツト）』——即ち、砂糖の結晶と、結晶しない糖蜜との混り合つたもの——となる。

（5）右の『白下』は、分蜜室へ送られ分蜜機によつて、結晶と糖蜜とに分離される。糖蜜は、再び結晶室へ送り返され、更に結晶操作を繰返す。第一回の操作で得られた砂糖を一番糖と呼び、再度の操作で得られたものを二番糖、三度の操作で得なれたものを三番糖と呼ぶ。三番糖以後は酒精原料として使用される。

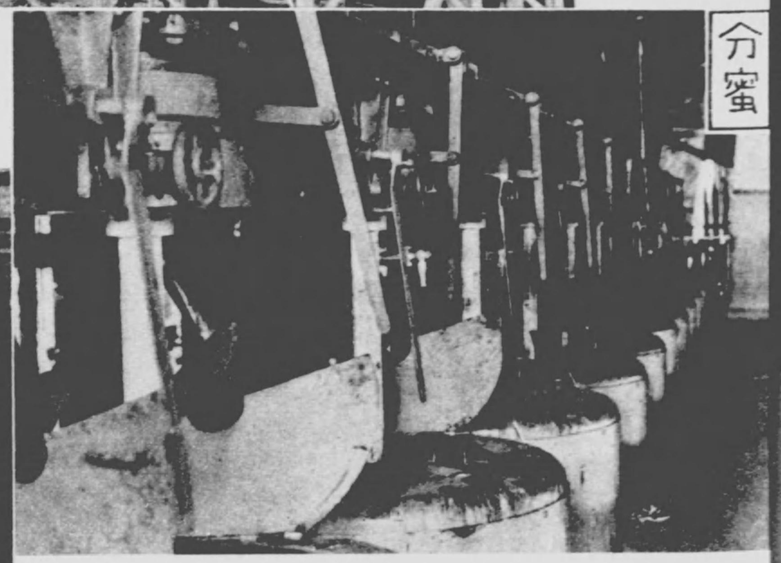
（6）かくて得られた砂糖の結晶は、乾燥室へ送られて十分に乾燥させた上、包裝室へ移す。かうして砂糖が出來上る。



結晶



壓搾



分蜜

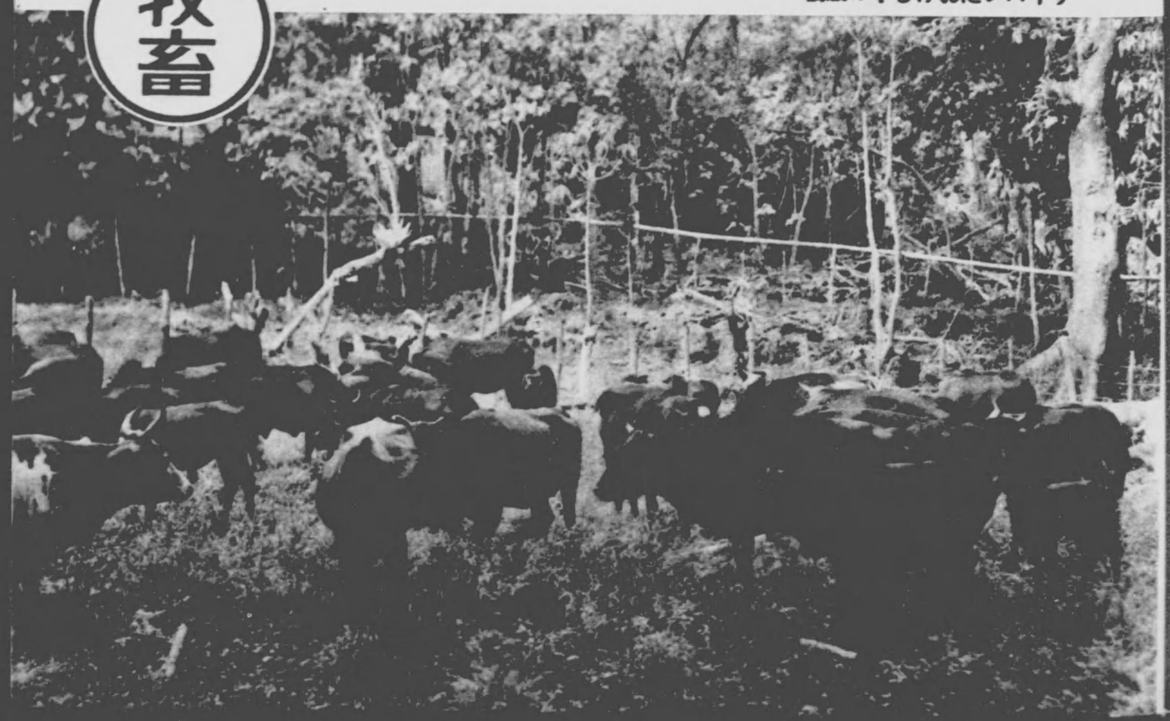
乾燥と包裝

清淨

水産

場漁（1）——種工造製節整　場漁（2）　選漁（3）　洗水（4）　切生（5）　備準の燥乾（6）　乾焙（7）　燥乾光日

牧畜

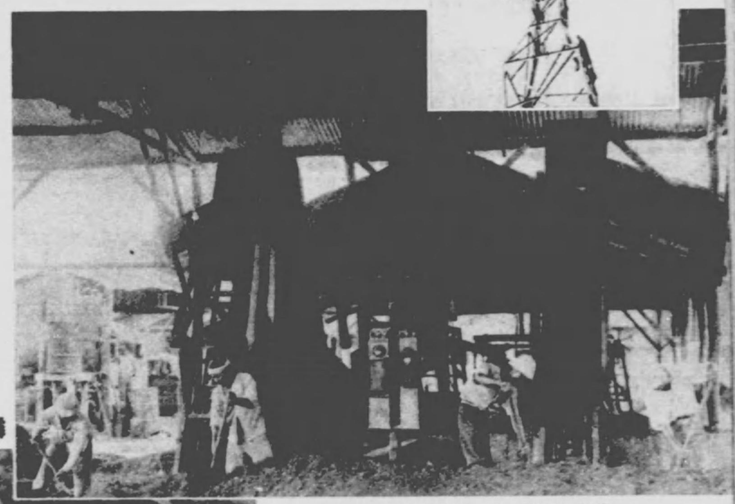


牧放の牛るけおにンパイサ

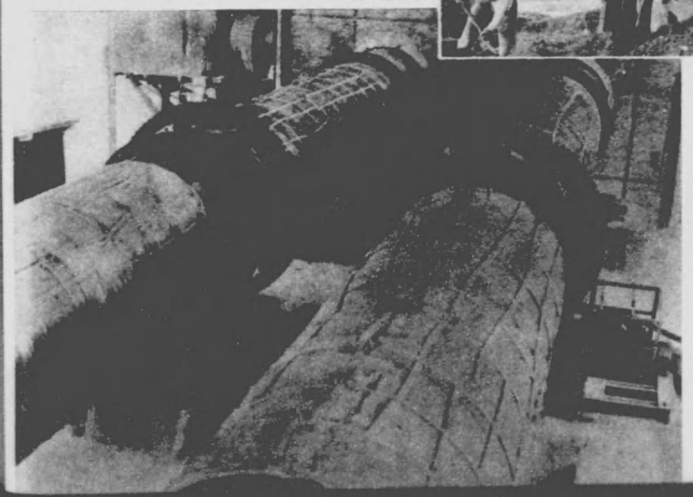
燐砿

場硫の取採硫燐るけおに島ーユリペ

ケーブルにて運搬

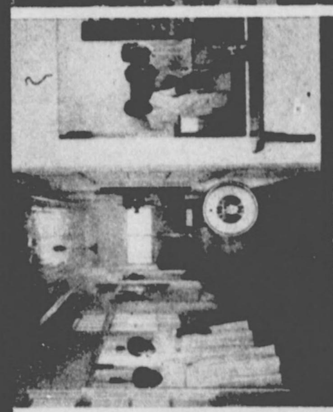


（口入挿硫洗水）燐精硫燐

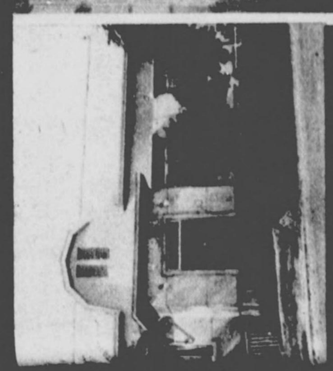


（ーヤイラド・ーリターロ）燐精硫燐

室務課屋附社本ンバイサ

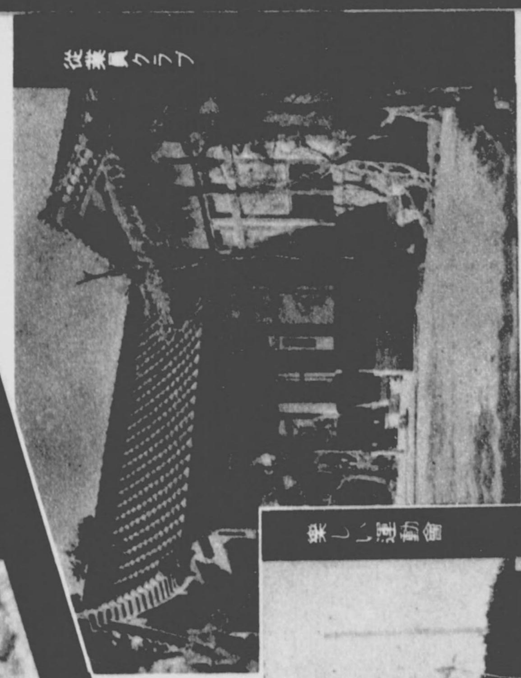


部內室務課社當タロ

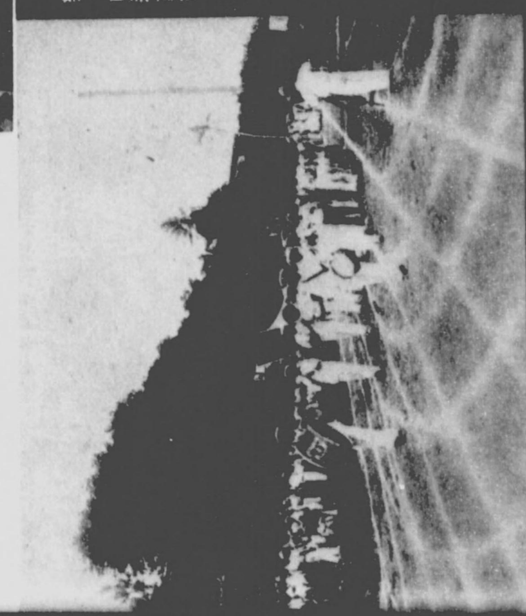


室務課所研製ンプニテ

保酒仕揮蒸



従業員クラブ



楽しい運動會

2・製糖業

(イ)沿革

製糖業は當社の生産部門に於ける大宗であり、今日の群島産業と文化の發展を齎した原動力をなすものであつて、當社は前身二會社が何れも舊式の赤糖工場を試みて失敗したのに鑑み、最初から巨費を投じて全然新式工場による大規模經營を行つて成功を收めたのである。

創業當時には甘蔗の害虫である籤象虫が猛威を逞しうし、この爲に折角植付た數千町歩の蔗園を燒拂ふ等のことがあつて、甚だ苦境に陷つたこともあるが、必死の努力によつて遂にこの難關を克服し、大正十二年の創業第一回の產糖成績は僅かに二萬餘擔に過ぎなかつたのも、昭和十年には百萬擔を突破し、昭和十四年期に於ては、百二十萬擔の生產額を擧ぐるに至つてゐる。

(ロ)事業地

當社の製糖事業地はサイパン、テニアン、ロタ竝にアギーガンの四島で、更に近くポナペに於ても製糖に着手する豫定である。

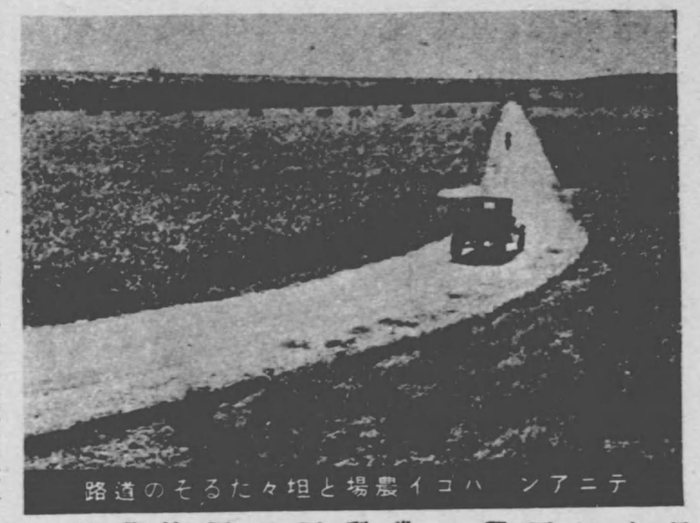
サイパン島は內地から南洋群島に入る關門に當り廣袤一八五平方粁（十二方里）であつて、中央に高く達寶頂山が聳え、山麓には潺湲たる溪流が繞り樹木蒼々として洵に風景絕佳の境である。當社の起業權利地は約七千町歩であつて、此の中現在五千三百町歩を耕地面積となし、此處に本社竝に製糖事業施設としては第一製糖工場、第一酒精工場、牧場等を設置してゐる。

テニアン島はサイパン島から指呼の間に在る西隣りの島であつて、全面積九八平方粁（六方里）、サイパンのやうに高峰はないが二段の卓子耕地をなしてゐる。本島に於ける當社の總起業權利地は約一萬町歩であつて、此の中現在七千一百五十町歩を耕地面積となし、殆ど全島をそのまゝ一大甘蔗農場と化してゐる。當社はこゝに製糖事業施設としては第二、第三の製糖工場と第二酒精工場及び牧場を設けてゐる。

アギーガン島は、テニアン島の前面に横たはる小島であるが、地味肥沃なので當社は總起業權利地中現在二百町歩を耕地面積となし、昭和十三年期からテニアン工場に原料を供給してゐる。

ロタ島はサイパン島から西方六十浬の地點に在つて總面積一二五平方粁（八方里）、サバナ山、タイピンコート岬等の佳景に富み、氣候の良好なるを以つて聞えてゐる。本島に於ける當社の權利地は約五千三百町であつて、此の中三千二百町歩を現在耕地面積となし、此處に當社は製糖事業施設としては、第四製糖工場（昭和十五年期より一時休止）と、牧場とを設置し役牛の供給と緬羊飼育を行つてゐる外、更に種々の熱帶作物と造林事業を營んでゐる。

ポナペ島は東カロリン群島中の主要島であつて、廣袤百七十五平方粁（二四方里）を有し、南洋群島隨一の大島である。本島は火山性の陸地で、海岸一帶には亭々たる椰子樹が繁茂し、海拔二千數百



テニアン　ハコイ農場と坦々たるそのそ道路

は雨量過多のため、從來製糖用甘蔗の栽培は不可能とされてゐたが、研究の結果製糖にも可能なることが判明したので、近く本島產の甘蔗の半を製糖に廻すべく計畫中である。

(ハ)當社直圍の强み

サイパン、テニアン、ロタ三島並にアギーガン島は氣候風土が最も甘蔗栽培に適する地方なので、當社は爪哇糖、臺灣糖、サイパン尺の山嶺が巍然として高く碧空に聳立する樣は正に群島中の偉觀である。

本島に於ける當社の全起業權利地は約二千二百町歩であつて、此の中約九百五十町歩を耕地面積となし、現在無水酒精用の甘蔗栽培を行つてゐる。本島實生種等に就いて比較栽培を行ひ、當地に適する最優良品種の選擇に力める一方、又試驗場に於て、專ら優良品種の育成とその研究に不斷の努力を拂つてゐる。

南洋は土地肥沃の上に充分なる太陽の光線と雨量に惠まれてゐるので金肥を要せず立派な收穫が擧げられるのであるが、極力堆肥の施用を行つて更に地力の維持增進を圖つてゐる。又南洋は甘蔗の成熟が早く、臺灣で普通十八ヶ月內外かかるものが、南洋では十二ヶ月內外で成熟收穫し得るので、この點に於て當社の糖業は多大の强味を有してゐるのである。

蔗園は會社の自營農場と耕作圃場とに分かれ、昭和十四年期の總植付面積は一萬一千二百餘町歩であつて、甘蔗收穫高は十億萬斤に達してゐる。

(二)製糖工場

現在三島に於ける當社新式四工場の能力並に現在製品は左の通りである。

工場別	能力	製品	機械	操業開始年月
サイパン第一工場	一、五〇〇英噸	KB、KD、NKA NKC、NK、	獨逸製	大正十三年
テニアン第二工場	一、二〇〇	〃	日本製	昭和五年
同第三工場	一、二〇〇	〃	〃	〃 十年
ロタ第四工場	八〇〇	(一時休止中)	〃	〃 十一年

計　四、七〇〇英噸

この中サイパン第一工場は昭和十一年から耕地白糖製造の設備に改善され、テニアンには第二第三工場の二つが併置されてその合計能力は二、四〇〇英噸で、東洋屈指の大製糖工場である。

工場作業も創業當初は步留が低かつたが、次第に成績向上し製品の品質では內地市場で臺灣一流會社の優良品と全然同一の聲價を持してゐる。右表中に示した當社製品を略記すると次の通りである。

製品記號	製品	製糖工場
KKDB	耕地白糖	(サイパン第一工場 テニアン第二、第三工場)
NKA	分蜜中双	(サイパン、第一工場 テニアン第二、第三工場)
NKC	分蜜二番糖	〃 第四工場
NK	島內消費糖	〃

當社製品の配給並に價格の統制等に關しては、當社は初め臺灣製糖諸會社のみを以つて組織されてゐた糖業聯合會の客員となり、協定に參加して來たのであるが、昭和十年右聯合會が全日本の製糖會社を會員とする日本糖業聯合會に改組されるや、當社は正會員として之に加入し、爾來本聯合會を通じて日本糖業の發展に資してゐる。而して當社は現在製品の大部分を內地（京濱、阪神）に供給し、大陸方面の需要に對してその一部を充てゝゐる。

(ホ)鐵道、船舶

當社は甘蔗運搬用としてサイパン、テニアン、ロタ三島に夫々鐵道を敷設し、その他ポナペ、ペリリユウにも燐礦運搬用の鐵道を敷設してゐる。(鐵道哩數は當局の達により省略す)

製品の積出は日本郵船會社の定期船に依り、各島間の連絡は主として南洋貿易株式會社が當つてゐるが、當社自らも數隻の社船を航行させる外、倉庫棧橋等にも多大の設備を行つてゐる。

(ヘ)牧畜、造林

當社は耕耘用並に運搬用の役牛飼育の目的でサイパン、テニアン、ロタの各島に牧場を設け社牛一千頭を飼育してゐる。之に蔗作人の畜牛を合すれは約三千六百頭に達する。本島牛は炎熱に對する耐久力が强く、加ふるに粗食に慣れ牛舍の設備を必要とせず、放牧のまま充分强壯を維持し得る優良種なので、當社は益々之が增殖を圖つてゐる。この外、當社は水牛と馬を飼育してゐる。

尙ほ當社は燃料補給と又防風林の設置を兼て、カマチリ、アカシヤ、想思樹、木麻黃、大王松、フランス松、ピルマ合歡等の造林を行つてゐる。

(ト)產糖實績と納稅

當社創業以來の累年收穫反別、收穫斤量と產糖實績を示せば次の通りである。

年期	收穫反別	收穫斤量	產糖高
大正十二年	一、五三五町	五八、〇八六、四〇〇〇斤	二一、三六五擔
〃 十三年	一、八二二〃	一〇六、〇〇五、七〇〇〃	五八、三七八〃
〃 十四年	二、五一〇〃	一八九、二九二、三〇〇〃	一四八、九五四〃
〃 十五年	二、七五六〃	二〇三、六一四、八〇〇〃	一五二、六五九〃
昭和 二年	二、八七二〃	三一四、一五六、三五〇〃	二〇二、五六〇〃
〃 三年	三、一五三〃	二四六、八九九、三五〇〃	一七三、八二七〃
〃 四年	三、二四一〃	二三二、二一一、七五〇〃	一六二、〇〇六〃
〃 五年	四、四三七〃	三七一、七一五、四〇〇〃	三四六、二四八〃
〃 六年	五、一三九〃	六一四、五一八、七〇〇〃	六四二、七八九〃
〃 七年	六、六三二〃	六九四、九二八、六〇〇〃	六九五、五七二〃
〃 八年	六、一九二〃	六八五、一二〇、七五〇〃	七二九、八〇七〃
〃 九年	五、九六五〃	六四八、六三〇、〇〇〇〃	七五〇、三〇三〃
〃 十年	八、一〇二〃	九〇三、九五七、二〇〇〃	一、一三五、三四五〃
〃 十一年	九、六九一〃	七四三、二六九、九〇〇〃	八一九、一六七〃
〃 十二年	一一、一一五〃	八八一、七六一、七五〇〃	九六一、一二八〃
〃 十三年	一二、二四五〃	一、一一九、二五三、六〇〇〃	一、二四一、六七六〃
〃 十四年	一一、六五四〃	九八九、一一七、〇五〇〃	一、一七一、六九五〃
〃 十五年	一〇、一二七〃	八七〇、六四一、四五〇〃	一、〇二四、七三六〃

（備考）—昭和十五年期に減產を見たのは、風害によるものである。

南洋群島は內地と稅法を異にしてゐる。卽ち內地の砂糖消費稅に相當するものを移出と同時に出港稅として南洋廳に納付するものであつて、當社現在の納稅年額は約八百萬圓に達する。而して既往の累計額は四千萬圓を超え、南洋廳の財政に對する貢獻は少くないのである。

3・酒精及び無水酒精事業

（イ）酒精事業

酒精は製糖の副產物である糖蜜を醱酵させて蒸溜するものであつて、當社はサイパンとテニアンに酒精工場を設置してゐる。

普通酒精は九十四度の工業用酒精であつて、製品の大部分は內地に移出し、臺灣一流品と聲價を同じくしてゐる。又この酒精を原料としてウイスキーを製造移出してゐる。尙ほ糖蜜その儘で內地に移出するものもある。（註—生產實績は當局の達により省略す）

（ロ）無水酒精事業

無水酒精は糖蜜或は甘蔗を原料として製造され、一般含水酒精よりも遙かに酒精度が高く、一名純アルコールの名がある。本品は從來消毒用として使用されてゐたが、近年化學工業の進步に伴ひ本品をガソリンに混用し、ガソリンの不足を補ふに至り燃料資源として非常に廣汎な用途を有つやうになつた。依つて當社も政府の燃料國

策に順應して、現在テニアンに於て製造を行ひ近くポナペに於ても製造に著手する豫定である。（註—生產實績は當局の達により省略す）

4・燐礦事業

南洋群島の燐礦開發は久しくアンガウル島のみに限られてゐたが、昭和六年爲替の低落以來輸入燐礦の暴騰を告げ、國際貸借の不利は內地農村の肥料問題に重大なる影響を來すに至つたので、當社は廣く群島燐礦の開發を企圖し、昭和八年南洋廳からペリリユウ島燐礦の礦業權を買受け直ちに起業に着手し、昭和十年からこれが移出を行つた。次いでトコベ島燐礦の礦業權を買收し、更に昭和十年七月當社はロタ島のサバナ山頂に相當礦量豐富な燐礦を發見すると共に、爾來サイパン、テニアン、アギーガンの採掘權をも獲得し、更に最近ではポナペ離島のナチツク、ヌゴール方面にも事業を計畫中である。右のうち現在燐礦工場を設置してゐる事業地は、サイパン、ロタ、ペリリユウ、トコベの四島であつてテニアン燐礦工場は建設中である。

當社は右內南洋燐礦採掘事業の外、新南群島にも新たに燐礦事業を行つてゐる。而も現在我國の燐礦石需要年額の大半を輸入に俟つ現狀にあるので、我國の肥料對策上からも、當社の南洋に於ける燐礦資源の開發は極めて重要な意義を持つのである。

而して物資動員計畫に伴ふ燐礦石の配給統制に關しては、昭和十四年六月燐礦生產業者及び輸入業者を打つて一丸とし、政府が設立した大日本燐礦株式會社（資本金參百萬圓、內拂込百五拾萬圓）に當社も生產業者として參加し、我國の燐酸肥料問題の解決に寄與してゐるのである。

註—以上の事業中、特に酒精、無水酒精、燐礦業の三業は當局の達により實績に就ての記述を省略し概說にとどめた。

5・拓殖移民事業

南興少年團の雄姿

（イ）沿革

南洋に對する拓殖移民は當社の重大使命である。大正十年、前身會社の蹉跌の跡を承けて、當社が創立されて以來今日迄既に二十年を數へ、其間、幾多の困難を克服して、我國の人口及び資源の兩問題に對する任務の達成に努力して來たのである。而して當社は製糖業

を大宗とし其他の諸事業を兼營して、今日迄に已に一萬六千餘町歩の土地の開墾を了し、此の間南洋に送つた移住者の數は略五萬人に近い。尤も此等の移住者中、成功して内地に歸還し、或は當社の手を離れて南洋群島で獨立したり、或は又外南洋方面に進出した者も相當の數に上つてゐるので、結局現在當社の直接傘下に在る者は約三萬五千人であつて、熱帶黨風の下營々として各地に富裕堅實な農村を建設するに至つてゐる。

(ロ)開拓起業面積と移住者數

現在の當社の内南洋に於ける事業地別開拓面積と移住者戸數とを示せば次の通りである。

當社内南洋事業地面積と移住者戸數

事業地	事業の種類	起業權利地面積	現在耕地面積	移住者戸數
サイパン	製糖	七、〇四五町	五、三五〇町	二、五八一戸
テニアン	製糖	九、六三二〃	七、一五〇〃	三、八四二〃
ロタ	製糖	五、二五五〃	三、二〇〇〃	一、〇九五〃
ポナペ	無水酒精用甘蔗栽培	二、一八四〃	九五〇〃	六三二〃
クサイ	無水酒精用甘蔗並ニ繊維作物試作	七六〇〃	五五〃	四四〃
計		二四、八六六町	一六、七〇五町	八、一八五戸

備考

一、土地は本表の外に外南洋各地並に南支方面を合して尚十六萬町歩の起業地或は權利地があるので、總面積は約二十萬町歩に達する。

二、移住者戸數は右の外、燐礦、水産其他外地事業關係を合し昭和十四年九月現在に於て尚一千七百餘戸あるので總戸數は略一萬戸に近い。即ち當社の直接抱擁する總人口は家族其他を合すれば約三萬五千餘人であつて、年々急速なる增加を示してゐる。

三、當社の進出以前に於ける南洋群島は、土地の一部が島民によつて極めて粗放に開墾されてゐたに過ぎず、見るべきものは西村拓殖と南洋殖産時代に開墾されたサイパン島の九百町歩だけであつた。土地の大部分は西班牙、獨逸領有の數世紀間全く絶海島嶼の灌木林として顧られなかつたものであつて、當社は此の灌木林に蔽はれた荒野を開拓して、今日の有用資源と爲したものである。

6・群島移住者に對する諸施設と公共事業

當社事業の中軸を爲してゐる内南洋地方に於ては、在來島民の人口は稀薄であり、而も文化程度低く、勞働能率が低いので、群島で事業を起さうとするには、先づ内地から勞働力を招致するのが第一の先決要件となる。この意味で當社は本來の使命上からも移住者の

生活安定を期し、之が諸施設の完備には深甚の考慮と努力を惜まないのである。

(イ)移住者の選定と諸資金の融通

當社は勞働力の需要を汎く移民國策の線に沿はしめる方針で、健全な移住者を各府縣から招致する爲め、移植民募集は沖繩、鹿兒島宮崎、熊本、山口、鳥取、愛媛、東京(八丈島)、福島、宮城、山形、秋田、青森等の諸地方に亙り、募集地の選擇には特に至大の考慮を拂つてゐる。又最近は特に半島方面からも相當員數の移入を開始したのである。而して全然無資產の農家に對しても南洋移住の途を與へるために、鄕里から就業地迄の渡航費、其他を支給し、更に渡航後の農耕具費、家畜費、住宅建築費、入植後一ヶ年間の生活費、耕作資金等の諸經費一切(一戸當り一千圓乃至一千五百圓に達する勘定)を貸與し、且つ耕作資金に對しては製糖期間七ヶ月間の利子を免除する等の諸制度を設けてゐる。從つて、裸一貫で渡島し、一戸當り平均一千數百圓の資金の融通を受けた農家も、僅々二、三年を出ない期間に、早くも前借金を完濟する許りか、尙ほ相當の餘裕を貯へ、次第に富裕を加へつゝあるのであつて、之は當社の最も大きな誇りとしてゐるところである。

(ロ)生活必需品の貸與

南洋では米、味噌、醬油、鹽其他生活必需品の大部分は内地からの移入に俟たなければならないのと、交通不便の爲めに高價であつたり、或は物資の不足を來す虞れがあるので、當社は直營の酒保制度によつて、常時數ヶ月分の物資を貯へ、大量購入による安價にして確實な供給方法を講じてゐる。殊に最近の物價激騰の時代にも拘らず、大體昭和十二年度期の値段を標準として配給を繼續してゐる。

(ハ)耕作地の割當と合理的耕作條件

移住者は耕作者と作業員とに分かれ、前者の主要なものはサイパン、テニアン、ロタ三島の製糖地蔗作者であつて、一戸當り五町歩乃至六町歩の耕地割當を受け、休閑地と自家用地を除いて毎年四町歩内外の蔗作を行ふ。而して收穫甘蔗の平均一割一分(實際徴收賃借料)を耕作料として會社に納付し、其他を會社に賣渡すのである。此の買收價格の決定に就いては當社は毎年管轄官廳である南洋廳の認可を受け極めて嚴正公平を期してゐるのである。

作業員は會社の直營農場と耕作農家に於て常傭賃銀制(現在は最低一圓四十五錢)で稼働するものであるが、渡島後間もなく請負制の適用を受けるものであるから、實收入はこの常傭賃銀を遙かに超過してゐる。之等作業員にも耕作者と同樣現住所より就業地迄の渡航費其他を貸與すること勿論である。

又耕作者と作業員との中間には準耕作の制度を設けて、割當耕地を一町歩とし、其の餘剩勞力を賃銀勞働に振向けることが出來るや

うにしてゐる。當社の耕作契約は小作法案の趣旨精神に基く最も進歩した合理的なものであつて、耕作料の如きも前述のやうに主作物たる甘蔗收穫高の平均一割一分強を徵するのみであつて、休閑地、住宅地、食糧栽培地等よりは全然小作料を徵してゐない。隨つて內地、朝鮮、臺灣等の小作料に比べると問題にならない程低率である。尙ほ當社では永耕作者を優遇する意味で、昭和十四年十一月から左の小作料の減免方法を實施してゐる（昭和十二年本制度創始）

期間	割當耕地に對する小作料（當社に於ては貸借料と稱す）の減免率
滿五ヶ年以上	一割
〃八ヶ年〃	一割五分
〃十ヶ年〃	二割
〃十三ヶ年〃	三割五分
〃十五ヶ年〃	五割
〃十八ヶ年〃	七割
〃廿ヶ年〃	全免

右の外、不作の場合を考慮して小作料の免除規定を設けるなど專ら移住者の生活安定の保障を旨としてゐる。

（二）利潤分配法の採用

當社は主作物である甘蔗を一定の買收價格で耕作者から買入れると共に、步留と砂糖の市價に應じ、當社獨特の制度としてスライディング・スケールに依る割增奬勵金を支出して、耕作者にも利潤の分配に預らしむる方法を採用してゐる。

（ホ）衞生施設

南洋群島にはマラリヤが絕無である許りでなく、他の熱帶地方のやうな恐るべき風土病といふものもない。たゞ降雨期に於ける脚氣と多少の胃腸病とを見るに過ぎない。當社は移住者の衞生保全を期して完全なる住宅設備を施し、水槽を造つて飲料水を供給し蔬菜園によつて新鮮な野菜を栽培供給し、又榮養士を囑託として食事改善の研究を行ふなど、移住者の健康增進に遺憾なきを期してゐる。

醫療施設としては、當社の事業地中サイパン、パラオ、ポナペ等には官立病院があり、又他島への官營の巡廻診察も行はれてゐるが、當社自身もサイパン、テニアン、ロタ、ポナペ其他各島に醫務室を設け、又各農場にはその分室を置き、何れも無料（特殊病）、又は少額の實費で、從業員及び其の家族の治療に當つてゐる。現在醫學博士以下十數名の社醫と多數の看護婦及び助產婦を配置してゐる。

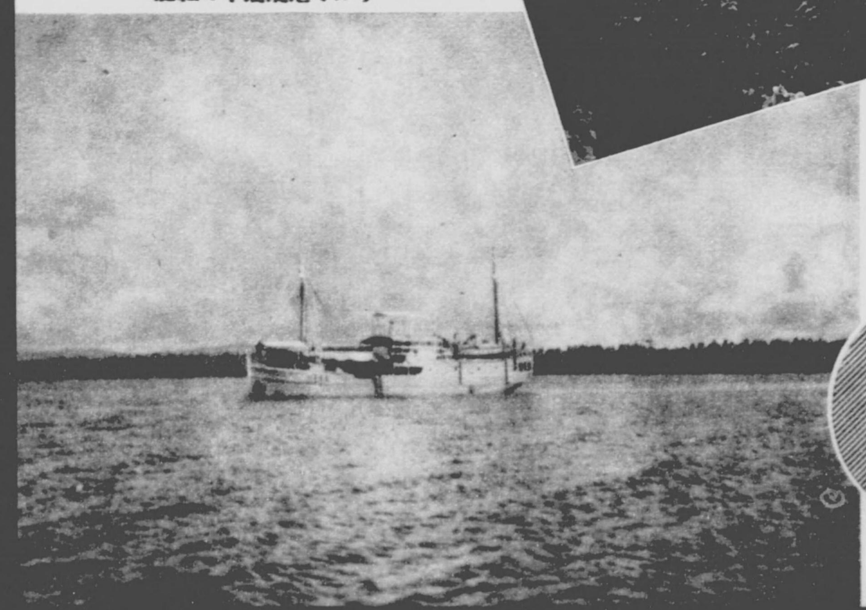
（ヘ）教育施設

內南洋の移住者子弟に對する當社の教育施設としては、現在初等教育と中等教育の機關がある。往年當社創業當時には事業地に於て幾多の小學校程度の教育所を特設して自ら移住者の子弟教育に當つ

外南洋事業グラフ

マノクワリの街路——ニューギニア第一の都
會も人口僅か四百の寒村に過ぎない

サルミの大原始林

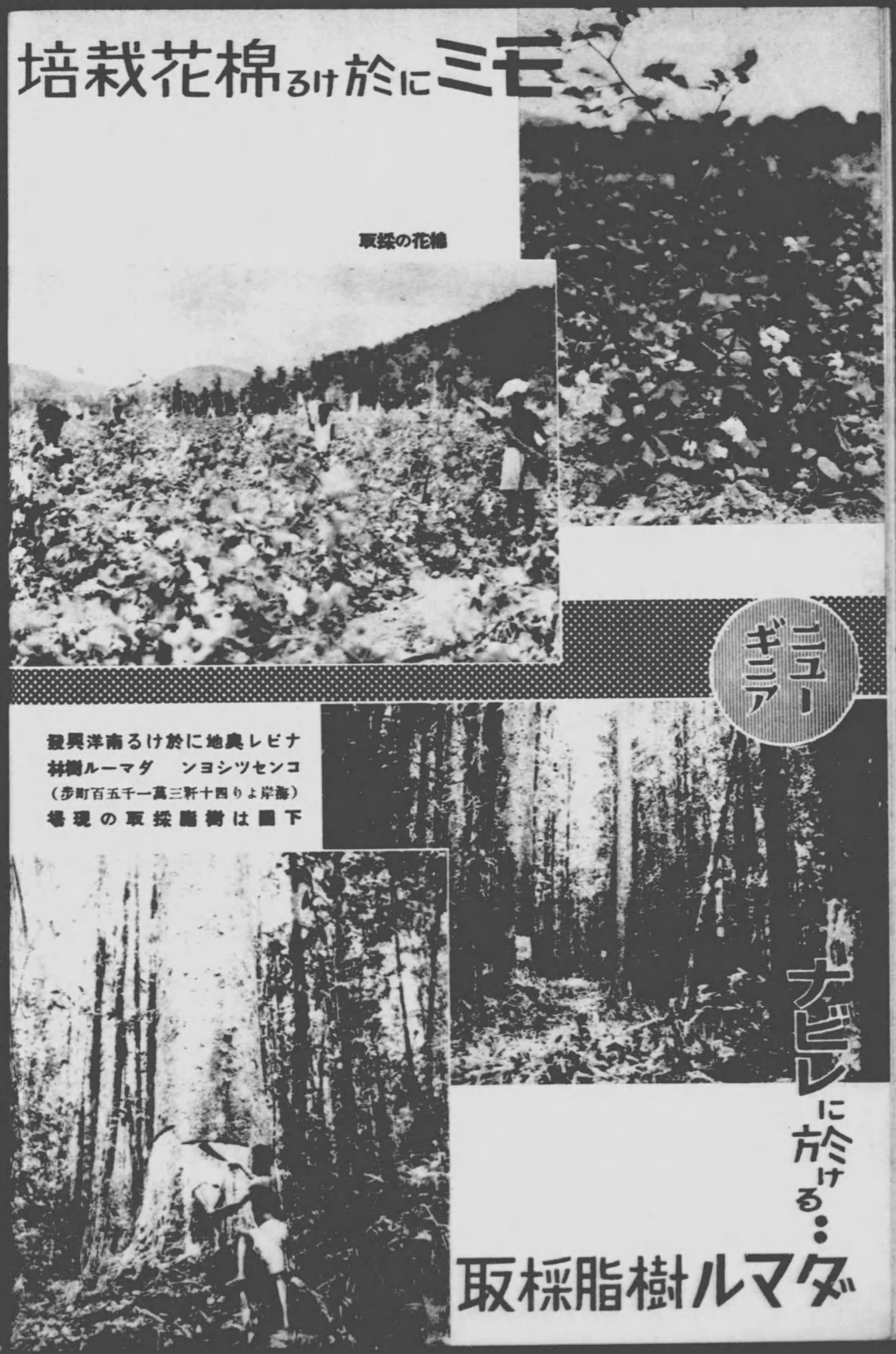


サルミ港碇泊中の社船

ニューギニア

ニューギニアに於ける・・ナビレ

取採脂樹ルマダ



取採の花棉

培栽花棉るけ於にミモ

田稻陸るせ屬附に場農作棉ミモ
試作の結果成績良好にて食糧自給の確信を得

（左及上）帳簿の花棉

發異洋南るけ於に地奥レビナ
林樹ルーマダ　ンヨシツセンコ
（海岸より四十新三萬一千五百町歩）
場現の取採脂樹の下圖は

ダマール樹脂精選工場

河ミブるす送流を脂樹（上）
庫倉藏貯脂樹の岸海レビナ（下）

ベセスレ

南大平洋貿易會社事務所

別墅のラブコ

マンキツト帝子園

ニューギニア

ナビレ海岸飛行場（パプア女の制作）

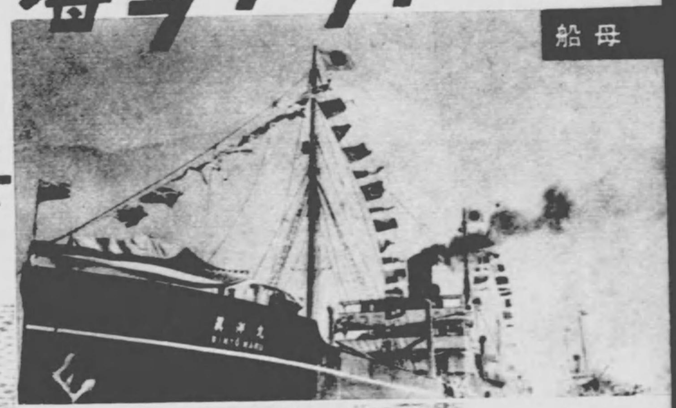
農場の一部（並立せるはカポック樹にてパンヤ棉が稔れる）

農場に於ける落花生の試作

アラフラ海に於ける眞珠貝採取

母船へ遊び來る濠洲人イガンピ

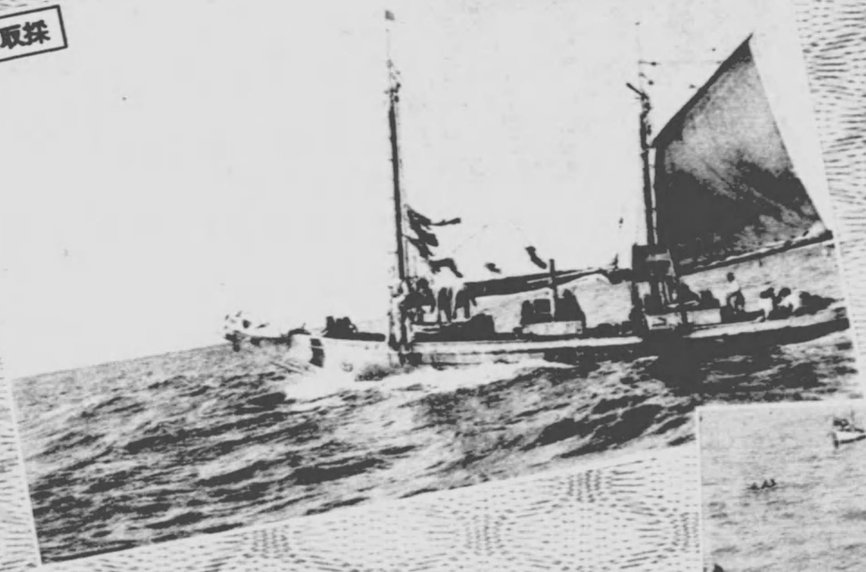
綱持ち



母船

引揚げ

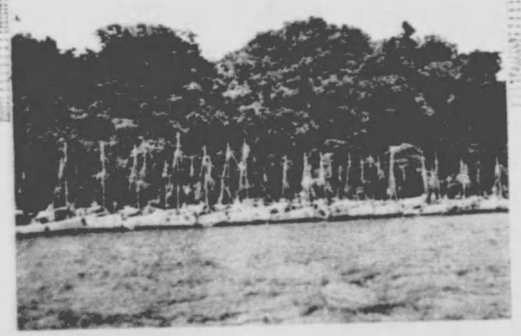
潜水



採取船

休漁期中の捕獲品

眞珠貝の荷造り



パラオ港に碇泊する採取船

母船と採取船の連絡ボート

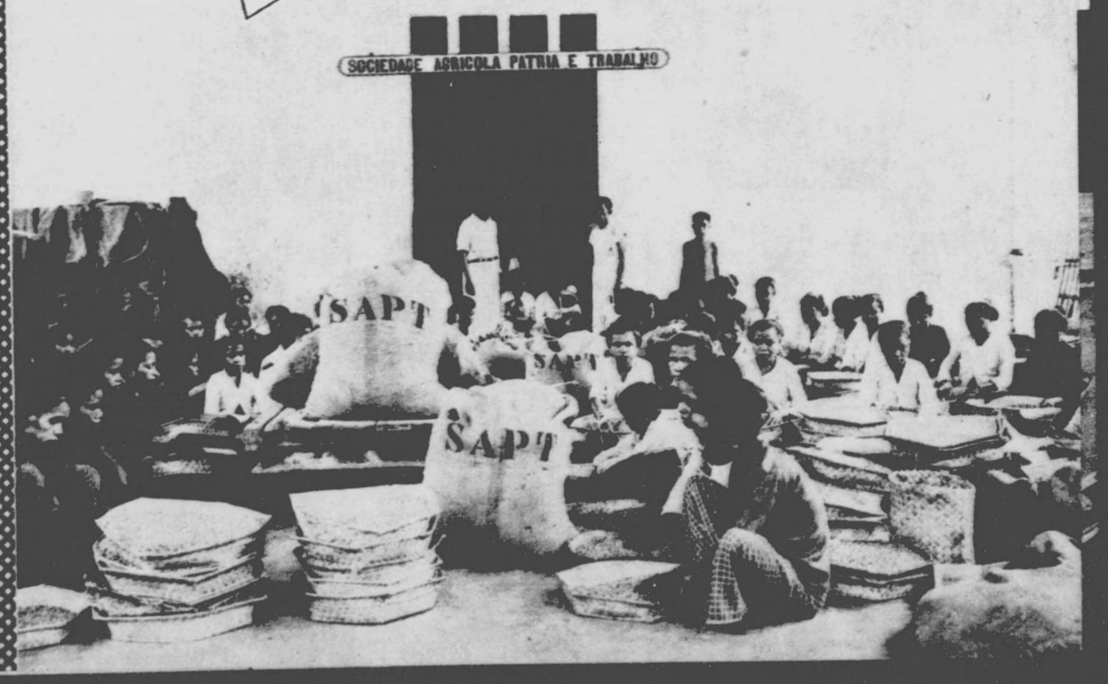
イチルモ

デリー市に於ける
S.APT事務所

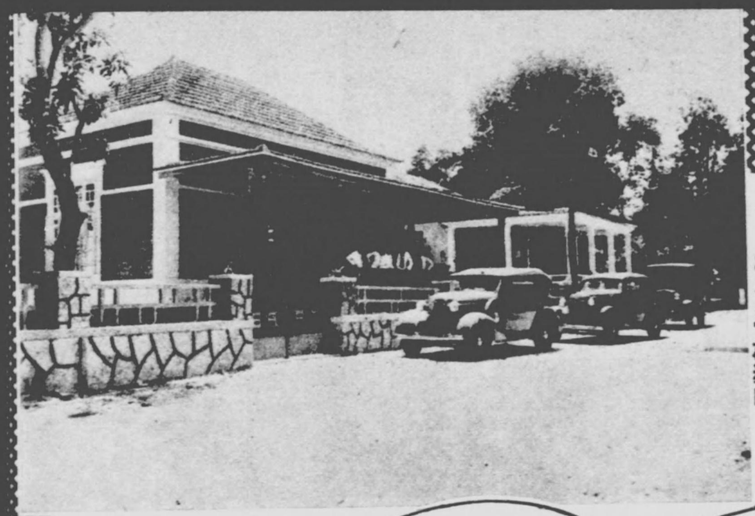
コーヒー

アヘコ

S.APTでコーヒー栽培作業に従事する土人の女



チーモル

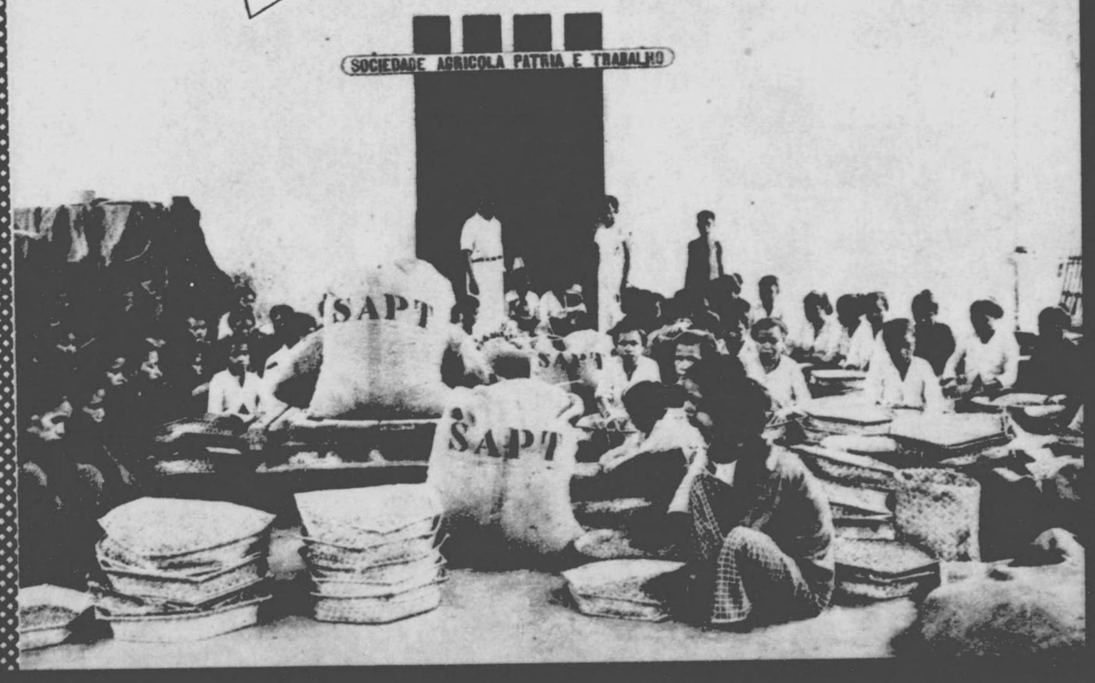


デリー市に於ける
SAPT事務所

コーヒー

アヘコ

SAPTで
コーヒー摘
別作業に従
事する土人
の女



たのであるが、漸次官立小學校が完備されて行くに從ひ、追々自營設備を官廳に寄附した。現在では當社直營の初等教育施設としては、サイパンに幼稚園を有するに過ぎない。當社事業地の官立小學校は高等、尋常を合して現在十九校（全群島では廿四校）その兒童數は約六千名であつて、うち八割以上は當社關係の移住者子弟で占めてゐる。

中等學校以上の教育機關としては、現在群島には、サイパン實業學校と昭和十一年に當社が援助創立したサイパン家政女學校（昭和十四年四月から南洋廳立高等女學校となる）とがある許りなので、當社は三年制度の補習學校をサイパン、テニアン、ロタの三島に夫々設けて中等實務教育を授け、更に此の中から選拔した優秀な子弟には、テニアンの同じく當社經營の三年制の專習學校に入學せしめ專門實務教育を授けてゐる。尙ほ當社は夙に少年團及び青年團を大體各島に設け、從業員子弟の特殊訓練に當つてゐる。

（ト）松江南洋報公會の設置

尙ほ當社は汎く、南洋產業に關する研究、調査の奬勵、南洋に於ける社會公共事業の助成及び南洋居住者子弟の教育補助等を目的とする公共事業機關として、昭和九年三月社長松江春次の醵金を主體とする基金十五萬圓の財團法人、松江南洋報公會を有してゐる。

本會は右基金の生む利子によつて、前記の諸目的を遂行し南洋產業の興隆を圖ると共に、南洋在住者に種々の便宜を與へてゐる。この報公會の奬學金によつて、移住者の子弟中、特にその希望を持つものには、當社は內地に於て中等學校及びそれ以上の大學專門教育を受くるに就ての援助を行ひ、今日迄に本會奬學金の恩典を受け、內地で中等學校或は大學專門教育を了へ、或は現に修學しつゝある者は約百名に達してゐる。又其等學生の一部は東京市瀧野川に在る南進寮に起居し修學の便益を受けてゐる。

（チ）住宅施設

當社は事業地各島に於ける多數の社員、現業員並に耕作者、準耕作者、作業員に對し生活の安定を與へるために、夫々大規模の直營社宅を設け、之を無料で貸與してゐる。而して當社は全從業員の趣味、情操に訴へて全住宅の綠地運動を行ひ、造園の優秀なるものには毎年の審査會に於いて、之を表彰してゐる。又事業地各地には從業員のために倶樂部を設け團欒の場所とし、之は又同時に各事業地或は內地から出張する從業員に對する宿泊所となつて居る。サイパン、テニアンの如く訪客の往復極めて頻繁なところには、特に數箇所の倶樂部を設置してゐる。更に各農場には耕作者、準耕作者及び作業員專用の完備した倶樂部を設けてゐることは云ふまでもない。

（リ）住宅附隨施設

各島の現地に於いて、當社は浴場、共同炊事場、理髮所等を直接經營し、無料又は極めて低廉な料金で一般居住者の便宜に供してゐ

る。

(ヌ)慰安娯樂設備

遠く內地を離れて群島開發の事業に從事する社員並に一般從業員を慰安するために、當社は各地に野球々場、テニスコートを初め各種の運動機關を設け、又娯樂慰安には適時に運動會、音樂會、映畫會、觀劇會等を開催し、或は內地から興業師を招致して之を各島に巡廻せしめる外、更に日刊新聞を發行して各家庭に頒布する等、極力移住者の慰安と指導に力を致してゐる。

(ル)道路施設

事業地の道路は官營の幹線道路を除き他の大部分は當社が自ら之を施設私營してゐるものであつて、之が開設と維持とには多額の資金を投じてゐる。當社は之によつて產業の開發と在住者の利便に供してゐるのである。

7・內南洋關係諸事業

I・漁業及び同加工業（南興水產株式會社）

四面廣濶なる大洋に圍まれてゐる南洋群島は又水產の一大寶庫であつて、斯業開發の有望性は云ふを俟たない。當社は群島水產業の發展を期し、昭和五年十一月靜岡縣燒津町の漁業組合と提携して先づ鰹漁業と鰹節の製造に著手した。爾來逐年事業の發展を見、之が大規模の設備を要することを痛感するに至つた。よつて昭和十年一月水產部を獨立させて資本金百二十萬圓（現在五百萬圓全額拂込）の南興水產株式會社を創立したのである。越えて同年四月にはサイパン島所在の南洋製氷株式會社を買收合併するに至り、更に昭和十二年には本會社を南洋拓殖株式會社との共同經營に移した。同社は本社をパラオに置き、パラオ、サイパン、トラック、ポナペの四島に營業所を設け、各營業所に鰹鮪漁業に必要な諸工場其他の諸施設を置いてゐる。現在に於ける同社の事業概況を示せば次の通りである。

(イ)鰹漁業及び鰹節製造販賣業——昭和十四年期に於ける漁船は直營船及び其他を合して六十四隻であつて、群島海洋を漁場として其の漁獲高は二百四十五萬貫に達し、その大部分を鰹節原料として製品四十萬貫を生產し、今や內地で消費される鰹節の殆ど八割は南洋節を以つて占めてゐるといふ盛況を示してゐる。

同社の鰹節工場並にその能力を示せば次の通りである。

パラオ工場	一日處理能力	一〇、〇〇〇貫
サイパン工場	〃	五、〇〇〇〃
トラック工場	〃	七、〇〇〇〃
ポナペ工場	〃	四、〇〇〇〃
計　四工場	一日處理能力	二六、〇〇〇貫

(ロ)製氷事業——右のうち、パラオ、サイパン、トラックの三營業所には別に製氷工場があり、漁獲物の冷藏を行ふと共に、他の水產業者にも販賣供給をなし（十四年期販賣高二百萬貫）、群島水產業の發展に甚大なる貢獻をなしてゐる。

(ハ)罐詰事業其他——尙ほ南興水產株式會社では傍系南興食品株式會社（資本金十五萬圓）を通じ、パラオ工場に於て鰹鮪を原料とする年額約一萬三千函の油漬、大和煮類の罐詰製造事業を行つてゐる。油漬は主として加奈陀向の輸出をなし、大和煮類は同社の大連出張所を通じて大部分を滿洲、關東州に輸出し、一部を島內及び內地に供給してゐる。其他東京の蒲田工場に於ては最近の一般需要に應じ、加工食料品として鰹の佃煮を製造すると共に、其他鰹肝臟、鰹荒粕等の輸出をも行つてゐる。

II・石油供給業（南洋石油株式會社）

近代產業の發達は石油燃料に負ふところ甚だ大であつて、之が供給の如何は產業の興廢を左右すると云ふも過言ではない。しかるに南洋群島には周知の如く石油の產出がなく、且つ油槽の設備が無かつたので、群島に於ける諸種の工場並に船舶用の石油は、從來外南洋、北米等の原產地から一旦內地に輸入し、一定の容器に入れ替へて之を南洋に輸送するといふ煩瑣な方法をとつてゐた。隨つてその經費、日子の上で多大の不利不便を免かれなかつたので、當社はこの點に着目し、昭和九年三月南洋石油株式會社（資本金壹百萬圓內拂込五十二萬圓）の設立に參加し、群島の各所に貯油タンク並に油槽船を設け、南洋に於ける石油の直接移入販賣を圖つた。而して當社は右南洋石油株式會社を通じ、當社の製糖工場並に社有關係船舶に對する石油の安價なる供給を行ひ、多大の便益と成績を擧げてゐる。

III・貨物運輸業（鵬南運輸株式會社）

群島に於ける一般貨物の取扱ひは、從來個人運送店の經營によつて事足りてゐたのであるが、群島產業の目覺ましい發展に伴ひ、從來の小規模の機構を以てしては南洋の經濟的發展の大勢に追隨し得ない情勢となつた。

即ち昭和六年から同十年に至る五箇年間に於ける群島貨物の增加率は、移入貨物に於て九割八分、移出貨物は實に十三割といふ增率を示し、尙今後の內外兩南洋事業の發展に伴ふ貨物の輸送量は益々增加の一路を辿る趨勢を示してゐる。

依つて當社は、南洋貨物の取扱に十數年の經驗を積む櫻回送店及び香取商店が相提携して、昭和十二年十月鵬南運輸株式會社（資本金二十萬圓全額拂込）を設立するに參加し、爾來南洋貨物の大量輸送に當つてゐる。昭和十四年度に於ては燐礦及び石炭の輸送を大宗とし、一般回漕關係では移出貨物四萬八千噸、移入貨物三萬四千噸

を取扱つてゐる。

Ⅳ・土地埋立業（南方產業株式會社）

南洋群島の西南端に位するパラオ島は、南洋廳の所在地として行政の中心地である許りでなく、外南洋進出の據點として非常に重要な地位を占めてゐる。隨つて群島の發展と相俟つて港灣の改善を必要とし、またコロール市街は土地狹隘なので當地に居住する內地人の增加につれて、その住宅と土地問題の解決もまた焦眉の喫緊事となつて居るのである。

依つて當社は、パラオに於ける海面埋立並に土木建築の請負業を目的とする南方產業株式會社（資本金百二十萬圓現在全額拂込）が昭和十二年十二月設立されるや之に參加した。同社は現在第一工區（七萬三千坪）及び第四工區（一萬二千坪）の海面埋立工事に從事し、パラオ港灣の施設、土地の增殖に協力しつゝあると共に土木建築其他の請負業を行つてゐる。

Ⅴ・黃麻（ジュート）栽培業（南洋特殊纖維株式會社）

我が國は國民の日常生活上缺くことの出來ない纖維資材、卽ち羊毛、棉花、人絹パルプを初め、麻類等各種纖維を自給することが出來ず、その大部分を輸入に俟つ現狀である。

その中、黃麻（ジュート）の如き南洋產の特殊纖維植物は、包裝材料として廣汎な用途を持ち製糖業にとつても缺くべからざるものであつて、印度から年々多量の輸入を見てゐたのであるが、最近戰爭に伴ひ內外の事情の爲め輸入が困難となり、種々の障害が生ずるに至つた。

當社は之が自給對策に關し、兼てから研究調査を行つてゐたところ、南洋に於て黃麻（ジュート）及カラオは僅かに三ケ月で成熟を見、一ケ年三作が可能である上に、而もその纖維は極めて良質であつて更に包裝材料とする以外に、特殊の加工を加へれば廣く他の用途にも役立つことが判明したのである。

そこで之を企業化することに決し先づ之が栽培はロタ休閑地の利用、クサイ島の開發並にパラオ島官營植民地の利用等によることとし、當社は多年特殊纖維の利用に經驗のある日本特殊纖維株式會社と提携して、昭和十五年五月南洋特殊纖維株式會社（資本金拾五萬圓全額拂込）を設立し、群島に於ける黃麻（ジュート）及びカラオ栽培並にその加工業に著手した。

右纖維植物の栽培地として現在直營農場を經營してゐる島は、クサイ、パラオの二島であるが、又ロタ、ポナペ、ヤップ等に於ても委託栽培、其他作物の買付を行つてゐる。而して纖維原料の益々需要せられる情勢に鑑み、本社の著手せる黃麻並にカラオの栽培事業は極めて前途有望であると云はなければならない。

★　★　★

Ⓑ 外南洋事業

1・概說

外南洋に於ける當社の主要事業地は蘭領東印度東部諸地方であるが、此の地方は地域廣濶且つ資源豐富なる上に而も我が南洋群島とは目睫の間にあり、開發の如何によつては我が國の不足資源を充分補足し得るのである。よつて當社は昭和六年以來內南洋に溢れる餘力を以つて、從來和蘭本國を初め歐米列國がその資本をシンガポールを中心とする馬來及び西部蘭印にのみ集中して殆ど顧ることのなかつたニューギニア、セレベス、ハルマヘラ、葡領チモール、アラフラ海等の大東諸地方に、率先進出して新資源開發の先鞭をつけたのである。

卽ち後段に詳述する如く、昭和六年には先づ蘭領ニューギニアに進出し、和蘭會社法による南洋興發合名會社を興して棉花栽培、ダマール樹脂採取其他の事業に從事し、更に昭和十二年以後に於ては、蘭領セレベス地方に於ける椰子園の經營、コプラ貿易其他に於て南太平洋貿易株式會社を興し、アラフラ海に於ては眞珠貝採取事業に參加して海洋殖產株式會社並に日本眞珠株式會社を設立せる外、葡領チモール島に於ては日蘭合辦組織のS・A・P・Tを興して農園經營及び貿易、海運を營み、ハルマヘラ其他に於ては幾多の邦人個人事業を援助する等、外南洋事業の基礎を鞏固にしたのである。

又最近に於いては、我國が新に領有を宣言せる新南群島に燐礦事業を起し、內南洋に於ける燐礦事業と共に我國の肥料問題の解決に努力してゐる。

斯くの如く當社は內南洋事業に基礎を置く之等外南洋各地の諸事業經營によつて、汎く我國の人口、資源問題の解決に新生面を打開すべく常に周到の用意と深甚なる努力を拂つてゐるのである。

2・ニューギニア事業

（南洋興發合名會社）

（イ）ニューギニア概觀——一名パプアの名稱があるニューギニアは北は赤道を距てて、一衣帶水の間に我が委任統治領たる南洋群島に臨み、南は眞珠貝採取事業で有名なアラフラ海を距てて直ちに北濠洲に對してゐる。

南洋興發合名會社マノクワリ本社

本島はグリーンランドに次ぐ世界第二の大島であつて其總面積八十萬方粁、我が國內地面積の略二倍强に當つてゐる。而もその人口は全島で約八十萬と概算されてゐるから、人口密度は一方粁當り一人の割合であつて、サハラ沙漠を含むアフリカ大陸の尙五分の一といふ驚くべき人口の稀薄さを示してゐる。本島住民の大部分は未開のパプア族であつて、ニューギニアが一名パプアの別稱を持つのも實に此の種族が本島の各地に蟠踞するに因るのである。

ニューギニアは東經百四十一度を境として、その東半部を英領とし西半部を蘭領とする。當社が事業經營を行つてゐるのは此の蘭領ニューギニアの西北地方、即ちヘールウインク灣を中心とする一帶の地方である。

此のニューギニアは、廿世紀の今日でも今尙調査開發共に奧地に及ばない所謂「謎の國」であるが、廣大な地域と豐富な資源に惠まれた南太平洋上の寶庫であつて、全島は悉く千古斧鉞を加へない密林に蔽はれ、こゝから產する有用木材資源だけでも莫大なものがある。其他今日までの調査に依つて知られてゐる埋藏鑛物資源としては金、銅、石炭、石油、銀、鐵、亞鉛、雲母、マンガン等の有用鑛物があり、而も之等の中、金、石油を除く以外は殆んど全く調査の手さへ下されてゐない實情である。

（ロ）當社のニューギニア進出の經過——當社は昭和六年此のニューギニアに於ける獨逸フェニックス會社の事業權利一切を買收すると共に、首都マノクワリに和蘭商法による南洋興發合名會社（和蘭法律に依る合名會社の資本金は不定とするも當社の現在迄の投資額は約三百萬圓）を設立してニューギニアに事業を興したのである。買收した權利はヘールウインク灣沿岸のナビレ奧地に在る三萬一千五百町歩のダマル樹脂林及びヌシ島並びにピヤック島に在る永租借權等であつて、翌七年事業諸計畫の確立と共に前記ダマル樹脂採取事業を開始し、次いで八年には南洋貿易株式會社からモミに棉花栽培用として、約三百五十町歩の永租借權の讓渡を得、更に十年には蘭印政府よりモミに二、〇〇〇町歩、サルミに三、五〇

〇町歩の夫々永租借地留保許可を得た。而して當社は現在右樹脂採取事業並に棉花栽培事業を經營する他、黃麻（ジュート）の栽培、雜作の栽培、牧畜經營更に船舶運航等、諸般の事業を行ひ逐年規模の擴大を加へると共に、萬古未拓のニューギニアの開發に依つて更に日蘭兩國の相互的福祉增進のため諸計畫を進めてゐる。

（ハ）ダマル樹脂林の經營——ダマル樹脂は楠に似た巨木であつて之に切付（きりつけ）を行ひ滲出した樹脂を採取するのである。これを原料とする製品は飛行機の塗料、船底塗料、其他一切の塗料原料及び蓄音機のレコード、電氣の絕緣材料、靴クリーム、凝革劑、胖創膏等頗る廣汎な用途を持つもので、當社はこの有數の供給地である前記三萬一千五百町歩のナビレ奧地大樹脂林の經營に鋭意力を注ぎ、吾國樹脂輸入の防遏を圖つてゐる。林間には數ヶ所の中繼所を設け、現在三百名近いパプア土人を使用して之が採集に當らしめ、年產額三千三百擔を擧げるに至つた。

（ニ）棉花栽培——昭和八年ワーレン（通稱モミ）に於て約三百五十町歩の永租借地の讓渡を受け、翌九年の初頭から棉花の試作に著手して以來、現在の棉作租借面積はモミ、サルミの兩地を合して一千五百六十町歩（他に租借許可保留地四千三百町歩あり）であつて、此の中已に開墾を了したものは一千一百町歩に達し、作付面積は七百町歩に及んでゐる。常用土人はモミ、サルミの兩地で二千八百名

ニューギニア　モミ農場に於けるジユート栽培實況

に及び、現在町當收量一千八百斤を擧げ得るに至つてゐる。

此の間當社は終始ニューギニアの前人未踏の原始林を開墾し、勞働に習熟しないパプア土人に稼働の訓練を施し、或は又赤實虫とか其他猖獗を極めた棉作害虫に對する徹底的驅除の方法を講ずると共に、品種の研究に於ては今日ミスデル三號種の如きニューギニア棉作に於ける最適品種を發見するに至つてゐる。其他交通、衞生、物資の供給に關する諸施設に至るまで、當社は徹頭徹尾自ら之を行ひ棉作事業の確立に努めてゐる。

（ホ）**黃麻（ジュート）栽培**——內南洋事業の項に於て述べた如く、黃麻（ジュート）は本邦に於て益々需要せられる趨勢にあり、今後南洋に於ける黃麻事業は極めて有望なので、南洋興發合名に於ては昭和十四年三月以來、ハルマヘラ產の黃麻種子をニューギニアに移植し、同地に於ける成績如何を研究した結果、ニューギニアの自然的條件卽ち高溫多濕で加ふるに水利の便に惠まれてゐる等のために、黃麻栽培が好成績を擧げ得ることを知つたのである。

依つて同社は昭和十五年期より黃麻の本格的栽培を行ふことゝなり、現在モミに四百五十町步、サルミに四〇町步の栽培に着手し、本事業に多大の期待をかけてゐる。

（ヘ）**雜作栽培、牧畜、船舶運航其他**——當社はモミ棉作地の一部及びナビレ海岸地方で租借した約五十町步の農場に於て、陸稻、玉蜀黍を初め其他タピオカ、靑豆、カポック、カ、オ、胡麻等の食糧作物の栽培を行ふ外、又牧場を設けて從來より役牛を飼育すると共にニューギニアの地質、氣候が濠洲と非常に近似するものがあるので緬羊事業の有望性を認め、現在モミに於てその試育に當つてゐる。

尙ニューギニア各事業地間竝にパラオ、マノクワリ間連絡の爲めには社船三隻を運航し、蘭印各地竝に內地との連絡に當らしめてゐる。社船は次の通りである。

一、ぬま丸（日本國籍二三八噸）—パラオ、ニューギニア（マノクワリ）、セレベス（メナド）間の連絡及び臨時コプラの積取。年大體十回航路。

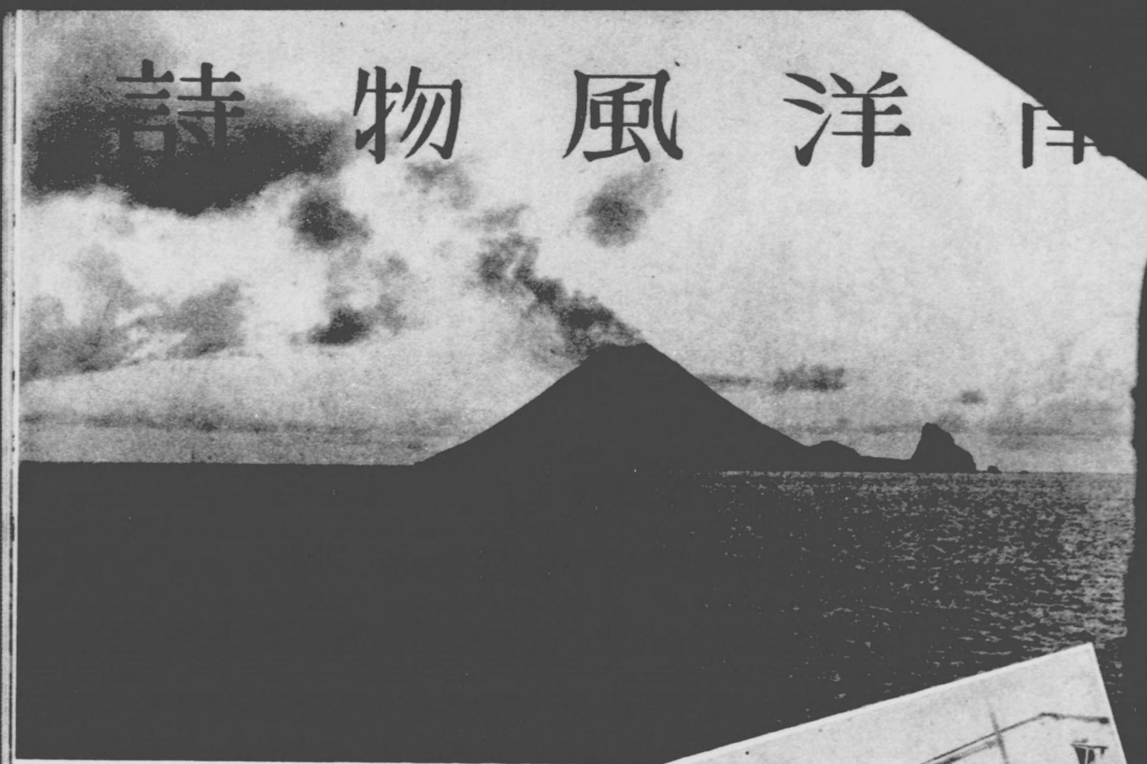
二、大東丸（和蘭國籍八〇噸）—マノクワリ、モミ、ナビレ、サルミ等のニューギニア沿岸連絡。不定期。

三、ヘールウインク號（和蘭國籍九噸、モーターボート）マノクワリ、モミ間及び其附近の補助連絡。不定期。

（ト）**從業員、勞力及び之に對する諸施設**——外地事業に於ける勞力問題は事業經營上至大の關係があるので、當社はニューギニアに於ても常に深甚の考慮を拂ひ、之が萬般の社會施設を怠らないのである。

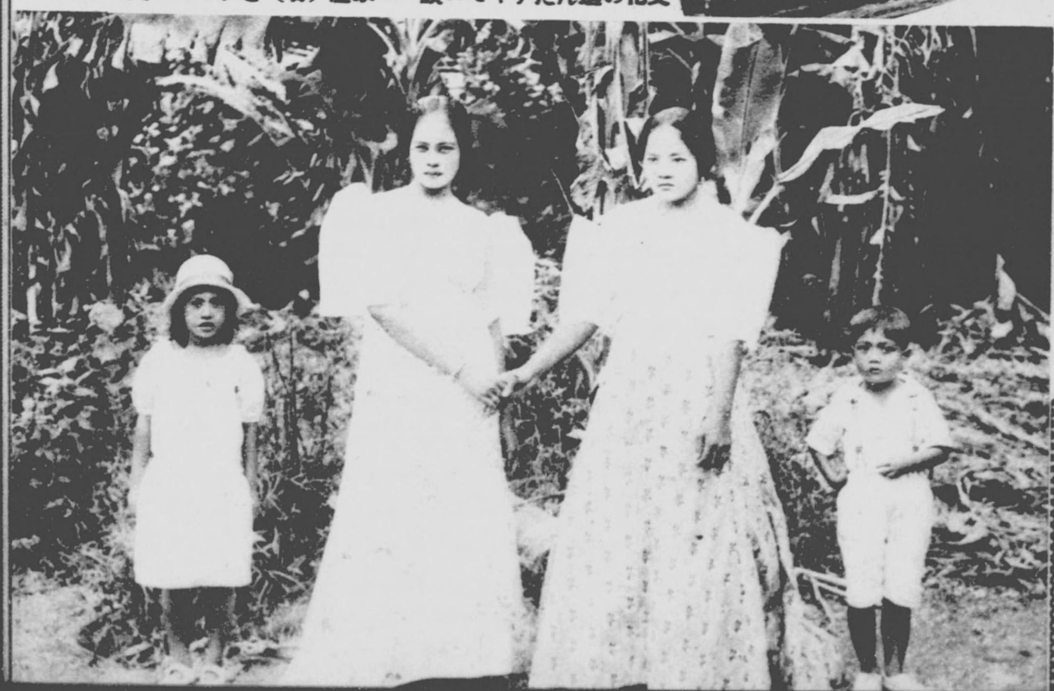
現在邦人從業員の數は蘭印政府の入國制限のため僅かに四十名に過ぎず、勞力は主として本島のパプア土人に賴つてゐる。而して土人勞働者の使役に對しては、初めはその習性が判らず、又その大部

南洋風物詩



南洋の玄關口にあるウラカス活火山島
（サイパンへ着く一日前に船はウラカス沖を通過する）

（下）人類ロモヤチと（右）原家族ロモヤチだん道の化文



カナカ族

風俗いろいろ

カナカ族の男女

土人の交通機関——カヌー

タコの實を採る
カナカ土人

カナカ族の說教

アバイ（集會所）

ヤップ島民の貨産——石貨

カナカ族の家屋

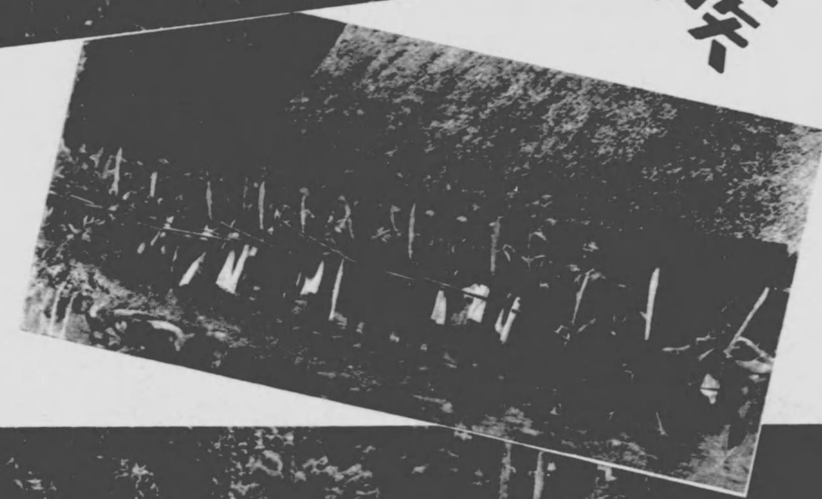
葡領チモール土人風俗

人土ルーモチる獲を瑠琉

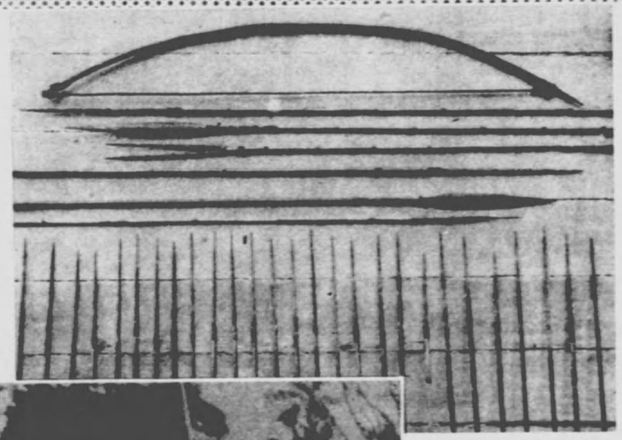
列行の人土るけおに市ーリデ

房女の人土る織を麻ルザイサ

踊るカナカ族

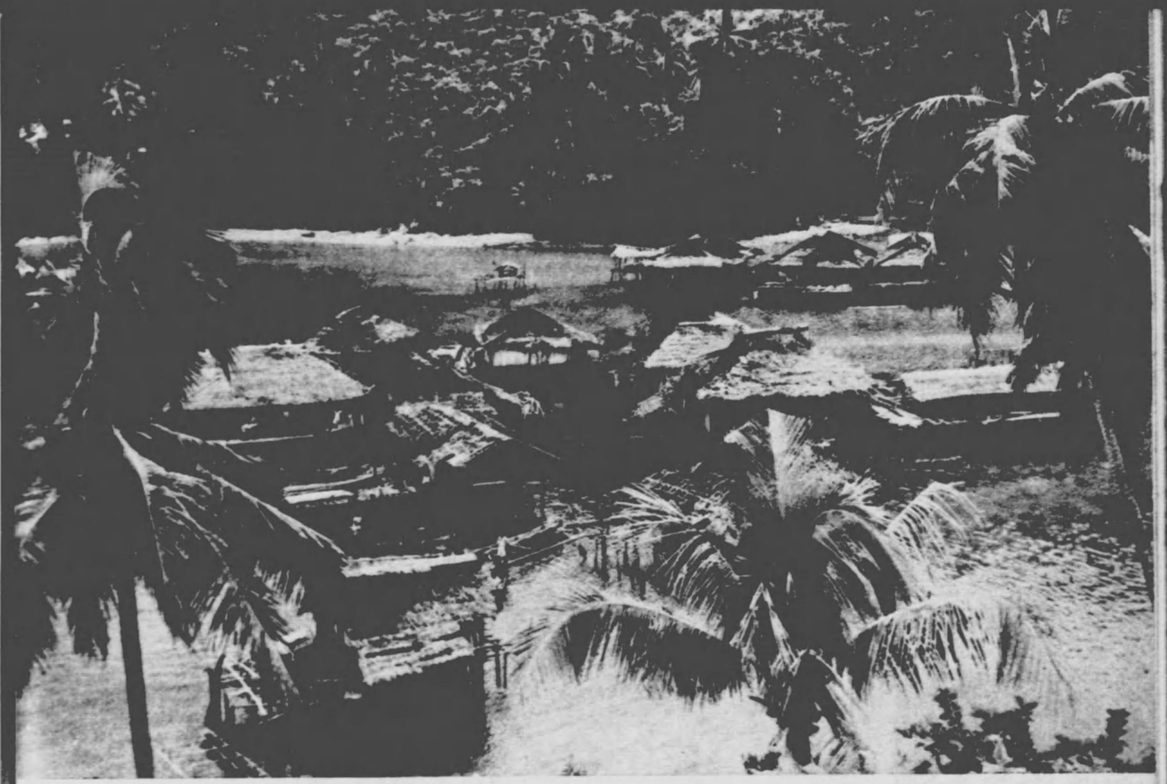


ニューギニア土人風俗

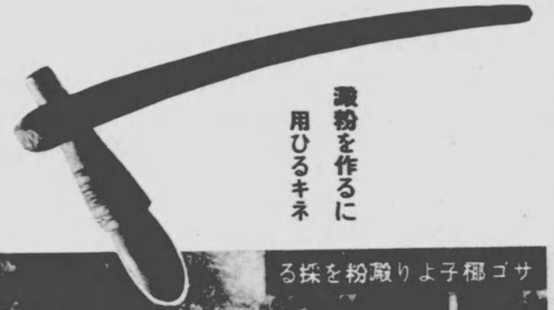


武器いろいろ

原始的な弓矢を以て狩猟に長ずるニューギニア土人



ニューギニア　ヤベンボ島における土人の水中家屋

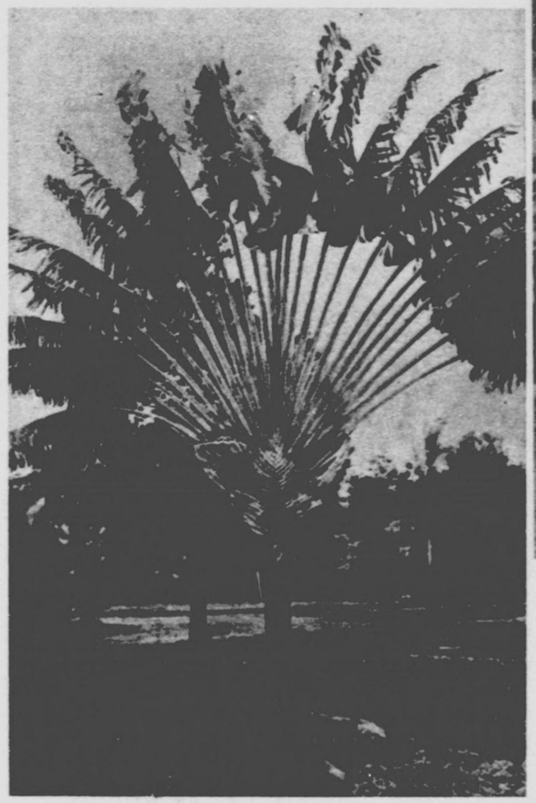


澱粉を作るに用ひるキネ

ーヌカと婦夫人土るけ於に河レビナ

る採を粉澱りよ子椰ゴサ

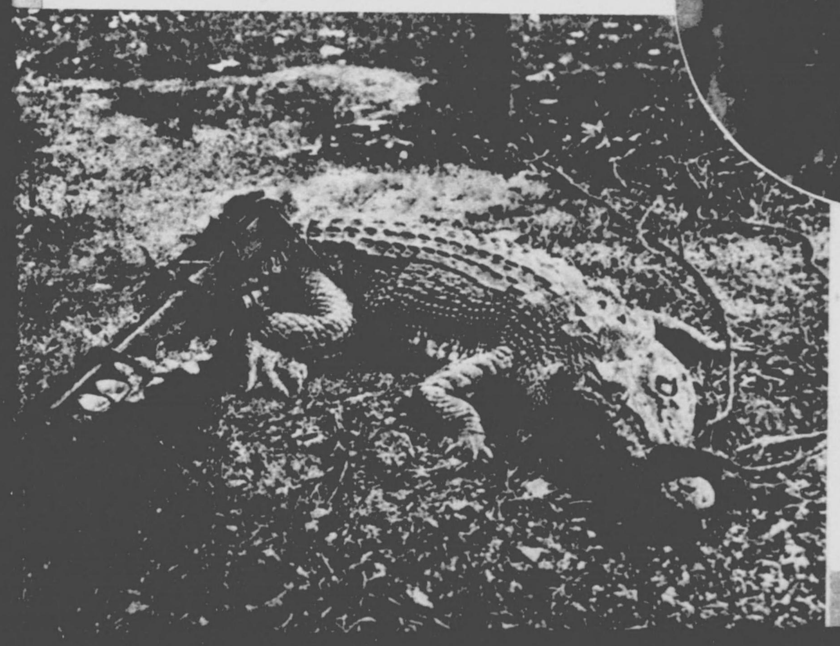
頭髪も自然のまゝの婦アブバ



蒸芭蕉

ヤイババ

産ヤニギーユニ
『のもけまな』



捕獲されたワニ

分が農耕に未經驗であつたので、之を定着稼働させるには非常な苦心を要したのである。即ち社船を以つて極力勞力の募集補給を圖り之に稼働の訓練を與へた結果、現在に於てはナビレ、モミ、サルミの三地方を合してパプア勞力約三千二百名を定着使役するに至つてゐる。

當社は之等の從業員並に多數の土人勞働者に對する社會施設として、蘭人醫師を置く病院、食糧物資の供給を爲す酒保を始め其他學校、教會、倶樂部、運動場等を設置し極力その慰安と教化保導に力めてゐる。

昭和十四年九月現在に於ける邦人從業員及勞働者の事業地別内譯を示せば次の通りである。

事業地別	邦人			土人			計
	社員	現業員	家族	萬律	男苦力	女子供苦力	邦人	土人
マノクワリ事務所	四	—	—	二	七	—	四	九
ナビレ樹脂事務所	四	—	二	一三	一八五	七九	六	二七六
モミ棉作農場	一三	一三	一〇	四一	一、八三〇	七一六	三五	二、五八七
サルミ棉作農場	二	三	三	六	二三三	六三	七	三〇一
計	二三	一四	一五	六一	二、二五四	八五八	五三	三、一七三

☆　☆　☆

3・セレベス事業

（南太平洋貿易株式會社）

（イ）セレベス概觀――セレベス島は蘭領東印度諸島の主要島の一つであつて、西にボルネオ、北に比律賓、東にハルマヘラ、セラム等を含むモルツカス諸島、南にチモール、フローレス、スンバワ島等を含む小スンダ列島等をその周圍に繞らしてゐる。而して之等の周圍の諸島が形成する圓列の中央に、恰も此のセレベス島は南太平洋中の巨大な海星（ひとで）の如くに長々とその四肢を伸べて横たはつてゐる。面積は約十九萬平方粁、人口は四二三萬餘であつて、一平方粁當りの人口密度は二十人餘りであるが、同じ東印度の爪哇の三百餘人に比較する時は霄壤の差があり、開發の前途尙洋々たるものがある。

島内で最もよく開發されてゐるのは、北部半島のミナハサ地方と南部マカツサルを中心とした地方であつて、東部地方のブロンダニ、西海岸のドンカラ地方も徐々に發展の歩を進めつゝある。

氣候は島内を縱横に走る山脈に影響されて他の蘭印諸島に比して著しく快適であり、平地は四季を通じて氣温の變化なく、メナドを中心とする比較的開發の行屆いてゐる北部海岸地方では平均攝氏二十六、七度を示してゐる。

住民は大部分が未開の土著人であつて、種族はブギ族、マカツサル族、ミナハサ族、其他トラア族、トラヂヤ族等であるが、ミナハサ、ブギ、マカツサルの三族は比較的文化程度も高く、大部分が農

商業に從事し、中には蘭印政廳の下に官吏、教師、軍人等に採用されてゐるものもある。

本島に於ける產業中、見るべきものは農業のみであつて、他の產業は今尙未開の狀態にある。農業は土人農業とエステート農業とに分かれる。卽ち前者は土人自身の手によつて稻、椰子、バナナ、珈琲、玉蜀黍等の栽培が行はれ、後者はメナド、マカツサル等に於て主として外人の組織的經營により護謨、珈琲、古々椰子、カポツク其他の農作物が大規模に栽培されてゐるものであつて、當社の關係する事業もこの後者に屬するものである。

(ロ)セレベス事業に進出の經過——前述の如くセレベス島はその土地の肥沃に加ふるに氣候が快適なので、比較的古くから邦人事業家の進出を見たところである。而して同地方は特に椰子の栽培に適しコプラの產額は蘭印全產額の實に六割强を占めてゐる。

當社は該地方にも南方經濟發展の一據點を設けるため、從來同地に於て個人事業家が經營してゐた農園その他を統合强化して、昭和十二年五月資本金壹千萬圓（內拂込貳百五十萬圓）の南太平洋貿易株式會社を設立した。爾來同社は椰子園の經營に當ると共に、子會社のセレベス興業合資會社を別働隊としてコプラの貿易を行ひ、之を主要事業として同島に於ける事業基礎の確立に力めた結果、近時漸くその完成を見たので、將來は椰子以外の農企業、鑛業、水產其他の諸事業にも進出せんとするものである。

(ハ)農園經營——南太平洋貿易株式會社の農園は現在マンキツト、スマラタ、カラセ、バボに於ける四農園である。此の中マンキツト園は同地方に於ける優良椰子園であつて、同社の直營に係り、面積約一千町歩、十萬本以上の椰子樹を擁し、逐次コプラ生產額を增加してゐる。他の三農園も椰子を主とし外に護謨、カポツク等の栽培を行ひ、何れも旣に生產期に達してゐるが、未開墾地を有する關係上、現在之が開墾植付に力めてゐる。

(ニ)コプラ貿易——コプラは食料及び油脂工業の原料として需要廣く、一九三八年度に於ては蘭領東印度から英、獨、佛、デンマークノルウエー、和蘭等に年額五十五萬三千餘噸を輸出してゐる。此の中の六割三分卽ち約三十五萬噸は實にセレベス島の生產輸出によるものであつて、南太平洋貿易の生產に係るコプラはその大部分を歐洲向けとし、その一部を本邦向けとしてゐる。同社はコプラ貿易のため、セレベスの中心市たるメナド及びマカツサルに支店を有し、同島沿岸並に沿岸諸島に買付出張所を設け、歐洲其他の需要に應じてゐる。

(ホ)其他の事業——同社は上述の事業の外に、內南洋に於けるコプラ事業並に之に關聯して內地に於て搾油事業を行ふため、昭和十三年一月その子會社として資本金四十五萬圓（全額拂込濟）の南洋油

脂興業株式會社を設立した。この油脂興業は內南洋諸島に營業所を有すると共に、內地に二ヶ所の搾油工場を設け油脂の製造販賣を行つてゐる。

此の外南太平洋貿易株式會社に於ては別に大阪事務所に於て海外輸出貿易を行ひ、滿支方面を初め近東亞細亞、蘭印等に雜貨、綿絲布等の貿易に當ると共に、他方同地に於て寒天の製造販賣をも行つてゐる。

4・葡領チモール事業

（S・A・P・T）

(イ)チモール概觀——チモール島は東印度諸島の中、小スンダ列島の最東端に位し、南はチモール海を距てゝ濠洲の西北海岸に對してゐる。本島は小スンダ列島中最大の島嶼であつて、全長の二九〇哩に比し最大幅員僅かに六二哩といふ東西に亙る細長い島で、全面積參萬五千方粁を有し、略我國の四國の面積に伯仲してゐる。島を折半して、その西半部を蘭領とし、その東半部並に蘭領北岸の一部を葡萄牙領とする。當社が事業の經營を行つてゐるのはこの葡領チモールであつて、當領の面積は一萬九千平方粁、人口は一九三四年に於て四六萬餘を算し、一平方粁の密度は二四人强に當つてゐる。

本島の住民は主として馬來パプア族であつて、これに華僑と歐羅巴人が加はり、邦人の數は極めて少ない。

氣候は山岳と高原に富む關係上、冬季の乾燥が非常に廣範圍に亙る特徵を有するが、他の季節に於ては概して氣候良好で、特に南海岸及び中央部方面の丘陵及び平野地域は多濕多溫の好可耕地に惠まれてゐる。

本島產業の主なるものは農業、牧畜、鑛業であつて、農栽培物では土人の食糧である玉蜀黍、米其他珈琲、コプラ、ゴム、カヽオ、茶などがある。牧畜には水牛、牛、馬、山羊、羊等の飼養が行はれ、鑛產には葡領の石油、金、滿俺等が特に有望視されてゐる。

(ロ)當社の葡領チモール進出の經過——當社は昭和十一年初頭以來數回に亙つて葡領チモールの調査を行つた結果、同島が相當資源に富み、其の上勞働力が豐富なのにも拘らず、對外交通に於て和蘭汽船會社々船に獨占され、其の運賃の高率の爲めに本島の開發が妨げられてゐるのを知つたのである。卽ち同島の開發に日本の資本と技術との進出が多分に有望且つ必要とすることを確認したので、昭和十二年九月官當局の援助を得て、同島の代表的商社ソシエダデ・アグリコラ・パトリア・エ・トラバリヨ（舊S・A・P・T）と提携して、資本金百八十九萬パタカの日葡合辦會社S・A・P・Tを設立し、爾來同島の開發に當つて來たのである。而して昭和十四年葡國政府の慫慂により新に葡國國立海外銀行（略稱B・N・U）を加へて葡國の半官半民會社となり會社組織の陣容を一新した。卽ち此の改組による各社の株式持分は、當社七五六、〇〇〇パタカ（四〇・

○%)、舊S・A・P・T九九〇、〇〇〇パタカ（五二・四%）、B・N・U一四四、〇〇〇パタカ（七・六%）であつて、舊S・A・P・Tが最大の株主となつたが、今後の新規事業は當社に有利な資本的、人的構成の下に經營することになつてゐる。

かくして當社は、此の日蘭合辦會社を通じ、現在約一萬六千町歩の農園と、チモールに於ける貿易海運界に獨占的勢力を持ち、更に今後は各部門別に投資會社を設立して、葡萄牙政府の供與する一切の好意と便宜の下に、各種の開發事業に著手し得ることとなつた。而して當社は更に我國現下の需要に應ずべく、先づ同島に於ける大面積棉作地の租借並に石油の開發計畫を進めると共に、將來は尙ほ銅、マンガン、クローム等の重要鑛物の獲得にも邁進せんとするものである。

（ハ）農園の經營——S・A・P・Tの農園は首都デリー市の西南約二〇哩の地點に在り、總面積一五、八〇〇ヘクターであつて、此の中珈琲栽培面積二、七〇〇ヘクター、護謨一、六五〇ヘクター、カカオ八五〇ヘクター、キナ、茶、椰子、其の他で七〇〇ヘクター、未開墾地四、二〇〇ヘクター、林地五、三〇〇ヘクター、利用不可能地二〇〇ヘクターである。而して之が勞力には現在土人約一千名を使用し、農園の經營に當つてゐる。

（ニ）貿易業——S・A・P・Tは在島華僑、蘭商との競爭に於て、種々有利なる條件を具備してゐるにも拘らず、その貿易實績は合辦登記問題を繞る政治的障害其他に煩はされて、未だ誇るに足る成績を擧げるに至つてゐない。依つて當社はチモール島貿易の改善、發展を期し、S・A・P・Tの經營部門特に販賣方面の缺陷の是正に乘り出したので、チモール貿易の實績は遠からず過去の成績を一新されるものと確信する。

（ホ）海運業——S・A・P・Tは社船ぬま丸（二三八噸）を使用して、現在月一航海乃至二航海の定期航路を以つてパラオとチモール・デリー市間の連絡に當つてゐる。

更に當社は一千噸級の汽船により高雄、香港、マカオ、マカッサル、チモール、デリー連絡航路を開設する計畫に就き研究中であつて、之によつて我國の經濟的南方進出の利便に一層貢獻しようと期してゐる。

5・眞珠貝採取及び加工業

（日本眞珠株式會社　海洋殖産株式會社）

（イ）漁場概觀——蘭領東印度東部地方と濠洲北岸との間に介在するアラフラ海、アロー海、チモール海、及び東印度洋等を含む廣汎なる一帶の公海は、概して海底が淺く、潮流、巖礁の布置宜しく、夙

に白人間に於て眞珠貝の好繁殖地として知られ、その採取の淵源は遠く西紀一八六〇年頃迄溯ることが出來る。而して此處に產する白蝶眞珠貝は天然眞珠の母貝であつて、特にその貝殼は高級釦或は種々の加工裝飾品の原料として汎く歐米に販途を有してゐる。

採貝根據地として有名なものには、濠洲ではヨーク半島の突端に在る木曜島、北オーストラリヤ洲のポート・ダーウイン、西オーストラリヤ洲のブルーム港等があり、又ニューギニアのアロー島ドボ及び南洋群島のパラオは邦人採貝業者の根據地として近年特に著名である。就中パラオを中心とする邦人の採取事業は著手以來日尙淺いにも拘らずその發展目覺しく、最近では濠洲、蘭印事業家の成績を凌ぎ、世界市場を堂々制壓するに至つてゐる。

漁期は漁場及び船籍によつて異るが、每年東南貿易風の吹く大體三月から十一月頃迄を漁期とし、特に八月から十月に至る三ヶ月間を最盛期とする。西北風の强い颱風期の冬季は、邦人船に於ては休漁期とし、漁船の修繕、人員の休養にあてゝゐるが、冬季中も領海內で仕事の出來る濠洲船の如きは、四季を通じて採貝を行つてゐる。

（ロ）當會社の眞珠貝採取事業進出の經過——眞珠貝採取事業は從來全く濠洲並に蘭印資本家の獨占事業として、數千人の日本潛水夫を使用して發展して來たものであるが、昭和六年以來前記南洋公海方面に初めて邦人船が進出する樣になると、忽ち邦人の採貝事業は外人事業を壓倒し、昭和十一年には早くも當時の眞珠貝世界年需要額六千噸の過半を占めるに至つた。當社は昭和九年以來邦人採貝業者に種々援助を與へて來たのであるが、統制機關の設けられてゐなかつたため、採取業者の濫立を來たして生產過剩となり、他方蘭印及び濠洲政府との間に種々喧しい國際問題さへ惹起するに至つた。よつて當社は昭和十二年六月事業の統制强化を期し、資本金三百萬圓（第一回拂込七十五萬圓、現在百五十萬圓）の海洋殖產株式會社を設立した。翌昭和十三年一月日本眞珠株式會社（資本金百五十萬圓全額拂込）の設立せられるや之に參加し、海洋殖產の採貝事業一切を日本眞珠に引繼ぎ、海洋殖產は眞珠貝の加工事業に主力を注ぐことになつた。

（ハ）眞珠貝採取事業——日本眞珠の資本は、當社並に南洋拓殖の協力により、本年（昭和十五年）四月新たに四百萬圓に增資された結果、その陣容と經營は一段と强化され、邦人採取船は今後一切同社の手に統制されることになつた。この新增資によつて同社が眞珠貝採取業者から買收した採取船は總計九十七隻であつて、この採取船を一手に擁して今後南方公海に於ける新漁場の開拓を目指す同社の事業は一段と躍進を見るべく期待されてゐる。

眞珠貝事業の過去の事業實績並に本十五年期の豫想を示せば次の通りである。

年次	出漁船隻數	生産額	價格（噸平均手取金）
昭和十一年	七四隻	一、九〇〇噸	一、二〇〇円
〃 十二年	一二〇〃	三、八〇〇〃	八五〇〃
〃 十三年	一六五〃	三、三〇〇〃	六五〇〃
〃 十四年	七七〃	一、四〇〇〃	八五〇〃
〃 十五年（豫想）	五九〃	一、五〇〇〃	

（右表中昭和十一年前の邦人採貝船の收獲高は採貝船が隨時隨所漁場附近の寄港地で販賣してゐた爲め實績不明である）

（二）眞珠貝加工業——傍系海洋殖產株式會社は、昭和十三年九月から大阪堺に於て試驗的に眞珠貝殼による高級釦製造を行つたところ非常な好成績を得、而も益々その需要が旺になる趨勢にあつたので十五年には甲子園製釦工場を買收併合し製釦工業の統一を計つたのである。現在兩工場に於て眞珠貝釦の製造を行ひ輸出しつゝある他に、眞珠貝を材料とする美術工藝品を製造し、內地需要に供給すると共に、之も亦第三國向への輸出を開拓すべく、各國で開催される產業博覽會其他に出品し、販途の擴張に力めてゐる。

※　※　※

以上は蘭領ニューギニア、セレベス、葡領チモール、アラフラ海等に於ける當社並に主要關係會社の事業の概貌であるが、當社は尙この外にハルマヘラ、セラム、アロー等の諸地方に於ても各種邦人事業に對して幾多の援助を行つてゐる。

6・新南群島事業

（イ）新南群島概觀——昭和十四年三月我國が新たにその領有を宣言し、臺灣總督府管下に編入した新南群島は、比律賓パラワン島の西方約二百浬の南支那海上に點在する小島群で、我國の南方生命線を確保すべき重要な群島である。本群島は殆んど無人島に等しく大小十三箇の主要島から成り、全島嶼の總面積は約二平方粁で何れも珊瑚礁から成る標高二米乃至八米位の低平な島嶼である。

氣候は高溫多雨で、室內溫度は一年を通じて平均華氏八十二三度であるが、日々數回訪れるスコールと、四時間斷のない涼風との爲に、內地の盛夏に比べれば遙かに凌ぎ易い。雨量は年二、〇〇〇乃至二、五〇〇粍程度で四季の別を分ち難いが、大體五月から十月頃迄を雨期とし、十一月から四月迄を乾燥期とする。

本群島の資源は長島、南双子島、三角島等に在る燐礦と、附近の海洋に豐富な鮪、鰹、鮫等の水產物を擧げ得られる以外特筆すべきものはない。

（ロ）當社の燐礦採掘事業——燐酸肥料は一般農業に於ける不可缺の重要肥料であり、その燐礦需要額の過半を輸入に俟つ現狀に鑑み、

當社は內南洋に於ける燐礦事業の經驗を基礎として、昭和十二年十二月新南群島に進出して燐礦調査を行ひ、本島事業の有望性を認めたのである。越えて十三年六月本群島燐礦事業に關する一切の施設と權益を開洋興業株式會社から繼承し、爾來最も有望な長島、三角島、南双子島等の燐礦調査を遂げ、現在先づ長島に於ける燐礦の採掘に著手するため諸般の建設作業に當つてゐる。

VI・結語

現在我が委任統治領となつてゐる南洋群島は、十六世紀の初め頃スペイン人によつて發見されたのであるが、彼等は淼々たる太平洋上に星を撒き散らした樣に點在する島々の開發に何等努力せず、宣教師を送る等のことをした以外殆んど全く放置してゐた。十九世紀末群島がドイツの領有に歸してから、ドイツは燐礦採掘、コプラ採取等を始めたけれども、本國とあまりに遠く離れて居るため特に見るべき結果を擧げるに至らなかつたうちに、歐洲大戰が勃發し、我が領有に歸したのである。

我が領有に歸して以來、當時の財界好況に乘じ、この新附の地に奇利を求めて殺倒し、種々事業を營む者も出たが、大多數は十分な準備と計畫とを缺いてゐたために、大正九年の大恐慌とともに忽ち崩壞してしまつた。このために南洋群島は經濟的に無價値だ、放棄せよといふ議論さへ擡頭した程である。

我が社はこの慘澹たる嵐の後に、新たなる決意と周到なる計畫を以つて群島開發に進出した。その後幾多の辛酸を嘗めつゝ荊棘の道を切り拓き、かくて南洋群島の開發は本格的軌道を進むやうになつて、今日の盛況を見るに至つたのである。今こゝに我が社が南洋群島の開發と發展とに力を致したところを要約すれば次の如くである。

(1) 南洋群島に於ける生產は、砂糖、燐礦、水產物、コプラ等を主として今日六千萬圓の巨額に達するが、そのうち我が社に於て生產する砂糖、糖蜜、酒精、燐礦之に關係諸會社の水產物、農產物等を加へるならば優に四千萬圓以上を占めて居るのである。

(2) 我が社の南洋群島開發事業の發展は、同時に群島への大和民族の發展に寄與するところ大であつた。群島經濟が面目を一新して今日の盛況を見るに至つたのは、文化程度低き島民によつて爲されたのではなくて、內地より移住せる優秀なる移住者の營々たる努力によるものである。

大正九年には內地人は僅か千七百名を算したに過ぎなかつたのが、昭和五年には五千三百名、十年には五萬二千名、十三年末には

實に七萬名といふ激增ぶりを示し、島民五萬を遂に遙かに凌駕して、群島の內地色は益々濃くなつて行つてゐる。しかもこの發展は我が社の移住民招致によるところ大であつて、今日我が社に關係を有する內地人の戶數は約一萬戶、その家族を合せれば三萬五千名を超える盛況である。群島の植民地として成功せる所以は、我が社の移住民招致の成功と、それに適當なる經濟的基礎を與へたことによるところ大であつたと言ふも過言ではない。

(3) 我が社の發展は同時に南洋群島の財政に貢獻してゐる。大正十一年に南洋廳が設置された時には、その財政は、歲入總額六百五十萬圓、うち五百二十萬圓は一般會計よりの補給によつて賄はれるといふ貧弱なものであつた。しかるにその後僅か十年、昭和七年には早くも財政的獨立をなし、世人を驚嘆せしめたのであるが、之には我が社の納付する出港稅の增加が尠からず貢獻してゐるのである。

昭和十五年度の豫算は歲入合計一千三百萬圓であるが、我が社の納付する出港稅は、八百萬圓を超えてゐる。

(4) 以上略述したやうに我が社は、南洋群島の開發に非常な努力を拂ひ實績を擧げたのみならず、その開發事業によつて得た熱帶產業開發の經驗と、蓄積せる資本とを以つて、外南洋への進出を開始したのである。外南洋特に蘭印は地域廣大であつて、各種熱帶農產資源、鑛產資源に富み、若しこの地の開發に邦人が大に參加することを得れば、日・蘭印兩國の友好關係を促進するのみならず、双方の經濟的發展に並々ならぬ利益を齎すであらう。

我が國は今や東亞新秩序の建設といふ開闢以來の鴻業の完成に向つて亘歩を進めてゐる。國內經濟力の充實、經濟的南方發展の實現は共に東亞新秩序建設のために缺くべからざる事柄である。過去二十年に亙つて南洋の開發に微力を盡した我が社は、尙一層の努力を傾注して其の本來の使命たる南洋の開拓と植民、南方經濟資源の開發に向つて邁進せんことを期してゐる。

当社及關係会社事業一覽（昭和十五年九月現在）

南洋興發株式會社

本社所在地　南洋群島サイパン
東京事務所　麴町區內幸町一ノ二　東拓ビル
創立年月　大正十年十一月
資本金
公稱　四〇、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込　二五、〇〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付　舊株　五〇圓（四〇〇、〇〇〇株）
新株　一二・五圓（四〇〇、〇〇〇株）
株式數　八〇〇、〇〇〇株（額面三〇圓）

大株主

東洋拓殖	四〇九、五四〇株
松江春次	四一、六〇〇株
栗林商船	三七、四六〇株
栗林商會	一六、〇〇〇株
水野恒路	三四、九〇〇株
愛國生命	二〇、〇〇〇株

主要役員（別表參照）

事業

一、拓殖移民事業
　全起業權利地面積　二〇〇、〇〇〇町歩
　從業員及家族人口　三五、〇〇〇人

二、製糖事業
　事業地　サイパン、テニアン、ロタ、アギーガン、ポナペ（計畫中）
　耕地面積　一六、七〇五町歩
　工場能力　サイパン　一、五〇〇噸
　テニアン　二、四〇〇噸　計　四、七〇〇噸
　ロタ　八〇〇噸
　附屬施設　鐵道、牧場、道路、機械、倉庫、船舶、造林等

三、酒精及び無水酒精事業
　事業地　酒精——サイパン、テニアン
　無水酒精——テニアン、ポナペ

四、燐礦事業
　事業地　ペリリユー、トコベ、ロタ、サイパン、テニアン、新南群島

南洋興發合名會社（N・K・K）

本社所在地　蘭領ニューギニア、マノクワリ
東京事務所　南洋興發東京事務所內
創立年月　昭和六年十一月
資本金　和蘭法律ニヨリ合名會社ノ資本ハ不定トス
南洋興發出資額　昭和十五年三月迄ノ投資額　約三、〇〇〇、〇〇〇圓

主要役員

代表社員（社長）	松江春次
〃	齋藤文也
〃	小松方也
社員	瀨川幸廣
〃	C・A・リハク

事業

一、ダマール樹脂事業
　事業地　ナビレ
　經營面積　三一、五〇〇町歩
　勞力　約三〇〇名
　年產額　三、三〇〇擔

二、棉作事業
　事業地　モミ（ワーレン）、サルミ
　棉作租借面積　一、五六〇町歩
　植付面積　七〇〇町歩
　租借留保并可地　四、三〇〇町歩
　勞力　二、八〇〇名
　町當年收量　一、八〇〇斤

三、黃麻栽培業（昭和十五年期ヨリ開始）
　事業地　モミ、サルミ
　植付面積　モミ——四五〇町歩、サルミ——四〇町歩

四、雜作栽培
　事業地　モミ棉作地ノ一部及ナビレ海岸地方
　種目　陸稻、玉蜀黍、タピオカ、菁豆、カポック、カ、オ、胡麻
　圃場面積　約五十町歩

五、海運業
　區域　ニューギニア各寄港地間、バラオ、マノクワリ間
　社船　ぬまた丸（二四〇噸）、大東丸（八〇噸）、ヘールフインク號

S·A·P·T Lda（日葡合辦）

本社所在地　葡領チモール　デリー市
東京事務所　南洋興發東京事務所內
創立年月　昭和十二年九月
資本金　一、八九〇、〇〇〇パタカ
合辦出資內譯
南洋興發　七五六、〇〇〇パタカ（四〇・〇％）
舊S·A·P·T　九九〇、〇〇〇パタカ（五二・四％）
B·N·U　一四四、〇〇〇パタカ（七・六％）
主要役員
日本側支配人　細川幸齋
葡國側支配人　シルヴィア家代表一名
同　B·N·U代表一名

事業

一、農園經營

總面積	一五、八〇〇町歩
椰珠	二、七〇〇町歩
ゴム	一、六五〇町歩
カカオ	八五〇町歩
キナ、茶、椰子其他	七〇〇町歩
未開墾地	四、二〇〇町歩
林地	五、三〇〇町歩
利用不可能地	二〇〇町歩
勞力數	一、〇〇〇人

二、貿易業（水文參照）

三、海運業

航路　パラオ——チモール、デリー市
使用船　ぬ三丸
航海數　年十二回

海洋殖產株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　麹町區內幸町一ノ二　東拓ビル
創立年月　昭和十二年六月
資本金

公稱	三、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込	一、五〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付	二五圓
株式數	六〇、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額	
引受株數	四九、八〇〇株
金額	一、二四五、〇〇〇圓
比率	八三％
主要役員	
代表取締役	布施保次
相談役	松江春次

事業

一、眞珠貝加工業

工場　兵庫甲子園鉦工場、大阪堺鉦工場
註　當社ハ眞珠貝採取事業ヲ目的トシテ設立セルモノナルガ昭和十五年期ヨリ採取業一切ヲ日本眞珠株式會社ニ引繼ギタリ

二、傭船業

社船及關係船ヲ各方面ニ傭船利用シツツアリ

南太平洋貿易株式會社

本社所在地　南洋群島サイパン
東京事務所　麹町區內幸町一ノ二　東拓ビル
創立年月　昭和十二年五月
資本金

公稱	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込	二、五〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付	二二・五圓
株式數	二〇〇、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額	
引受株數	七、二〇〇株
金額	九〇、二五〇圓
比率	三六％
主要役員	
取締役會長	松江春次
〃社長	水野恒路

事業

一、コプラ貿易（セレベス興業合資會社）

買付ステーション　二十ケ所（內九ケ所開設濟）

二、農園經營

マンキット椰子園	面積　一、四三五バウ
スマラタ椰子園	
カラセ農園（椰子、ゴム） パポ農園（椰子、カポック）	面積　一、七五五バウ

三、內南洋椰子油事業（南洋油脂興業株式會社）

四、雜貨輸出入貿易

日本眞珠株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　芝區田村町二ノ一五　愛坂ビル
創立年月　昭和十三年一月
資本金

公稱	四、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込	四、〇〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付	五〇圓
株式數	八〇、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額	
引受株數	四〇、一二五株
金額	二、〇〇六、二五〇圓
比率	五〇％
主要役員	
取締役社長	兒玉貞璋
專務取締役	石川忠一
相談役	松江春次

事業

一、アラフラ海ニ於ケル眞珠貝採取事業カ驟者濫立ノ爲メ生產過剩トナリ共倒レノ惧アリシヲ以テ、之カ統制ヲ目的トシテ設立セルモノニシテ、設立ト同時ニ運搬船及母船ノ經營ニ着手シ爾ニ之カ全般的統制ニ當ル

二、眞珠貝採取事業

事業地　アラフラ海、木曜島、チモール海及濠洲西北沿岸一帶
漁船　九七隻
昭和十五年期取扱殼高　一、五〇〇噸

南興水產株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　芝區田村町二ノ一二
創立年月　昭和十年三月
資本金

公稱	五、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込	五、〇〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付	五〇圓
株式數	一〇〇、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額	
引受株數	二四、九一〇株
金額	一、二四五、五〇〇圓
比率	二四％
主要役員	
取締役會長	松江春次
〃社長	杉田芳郎
專務取締役	龜原市藏

事業

一、鰹漁業及び鰹節製造業

事業地　パラオ、サイパン、トラック、ポナペ
漁船　六十四隻
工場一日處理能力
パラオ（一〇、〇〇〇貫）　サイパン（五、〇〇〇貫）
トラック（七、〇〇〇貫）　ポナペ（四、〇〇〇貫）
昭和十四年漁獲高　二、四五〇、〇〇〇貫
〃　鰹節製造高　四〇〇、〇〇〇貫

二、製氷事業（南洋製氷株式會社）

工場　パラオ、サイパン、トラック
十四年期販賣高　二、〇〇〇、〇〇〇貫

三、罐詰事業其他（南興食品株式會社）

品目　油漬、大和煮、佃煮、鰮肝罐、鰮荒粕
十四年期罐詰製造高　二三、〇〇〇函

南洋石油株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　麹町區內幸町一ノ二　東拓ビル
創立年月　昭和九年三月
資本金

公稱	一、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込	五二〇、〇〇〇圓
一株ニ付	舊五〇圓 新二〇圓
株式數	二〇、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額	
引受株數	三、八〇〇株
金額	九四、〇〇〇圓
比率	一九％
主要役員	
取締役社長	栗林德一
常務取締役	頓宮孝

事業

南洋群島ニ於ケル工場船舶等ニ對スル石油ノ供給ヲ目的トスルモノニシテ、群島ノ要所ニ貯油タンク及ニ油槽船ヲ有ス。目下事業擴張計畫中

鵬南運輸株式會社

本社所在地　東京市麹町區内幸町　東拓ビル
創立年月　昭和十二年十月
資本金
公稱　二〇〇、〇〇〇圓
拂込　二〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付　五〇圓
株式數　四、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額　一、〇〇〇株
引受株數　五〇、〇〇〇圓
金額　二五％
比率
主要役員
取締役會長　押田勝彦

事業

内南洋貨物激增ニ伴ヒ從來ノ個人運送店ヲ統一强化セルモノナリ
昭和十四年期運轉實績
一、鯖　噸　四八、〇〇〇噸
二、石　炭　三四、〇〇〇噸
三、一般雜貨關係
移出貨物
移入貨物

南方産業株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　麹町區内幸町二ノ一　大阪ビル
創立年月　昭和十二年十二月
資本金
公稱　一、二〇〇、〇〇〇圓
拂込　一、二〇〇、〇〇〇圓
一株ニ付　五〇圓
株式數　二四、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額　七、二〇〇株
引受株數　三六〇、〇〇〇圓
金額　三〇％
比率
主要役員
取締役社長　巻整造

事業

一、土地埋立業
パラオニ於ケル埋立事業ニ土地經營、目下第一工區（七三、〇〇〇坪）、第四工區（一二、〇〇〇坪）ノ埋立事業繼續中
二、土木建築請負業

南洋特殊纖維株式會社

本社所在地　南洋群島パラオ
東京事務所　麹町區丸ノ内三ノ二、三菱二ノ號館
創立年月　昭和十五年四月
資本金
公稱　一五〇、〇〇〇圓
拂込　一五〇、〇〇〇圓
一株ニ付　五〇圓
株式數　三、〇〇〇株（額面五〇圓）
南洋興發引受額
引受株數　一、五〇〇株
金額　七五、〇〇〇圓
比率　五〇％
主要役員
社長　佐藤正

事業

南洋ニ於ケル黄麻（ジュート）栽培竝ニ同加工業ヲ目的トシ、現在直營農場ハ、クサイ、パラオノ二島ニシテ、其他ロタ、ポナペ、ヤップ等ニ於テ委託栽培ヲ行フ。

其他の投資關係

- 南洋拓殖株式會社
- 日本砂糖配給株式會社
- 大日本燐礦株式會社
- アルコール輸送株式會社
- 早山石油株式會社
- 太平洋石油株式會社
- 滿洲製糖株式會社
- 大日本航空株式會社

当社の役員

取締役社長　松江春次
取締役副社長　栗林徳一
專務取締役　齋藤喜三郎
常務取締役　色部米作
常務取締役　藤田達一
常務取締役　松浦諒助
常務取締役　布施保次
取締役　錦織較三郎
取締役　棚木范

監査役　小椋長吾
監査役　齋藤力
監査役　水野恒路

当社の事務所及出張所

本社　南洋群島サイパン島
東京事務所　東京市麹町區内幸町一ノ二東拓ビル（電話銀座五七三一九一(8)・長三一九七番）

サイパン製糖所　南洋群島サイパン島
テニアン製糖所　〃　テニアン島
ロタ製糖所　〃　ロタ島
パラオ事務所　〃　パラオ島
パラオ鑛業事務所　〃　パラオ島
ペリリュー採礦所　〃　ペリリュー島
トコベ採礦所　〃　トコベ島
ポナペ酒精製造所　〃　ポナペ島
クサイ調査所　〃　クサイ島
新南群島採礦所　臺灣高雄市管下新南群島
高雄出張所　高雄市壽町五
大阪出張所　大阪市西道頓堀五ノ四
下關出張所　下關市岬町

ニューギニア事業部　蘭領ニューギニア　マノクワリ及ナビレ
N・K・K東京事務所　東京市麹町區内幸町　南洋興發内
チモール事務所　葡領チモール島　デリー市
S・A・P・T東京事務所　東京市麹町區内幸町　南洋興發内

伸びゆく南興
（南洋開拓と南洋興發株式會社の現況）
昭和十五年五月十九日　印刷
昭和十五年五月二十日　發行
非賣品
發行所　南洋興發株式會社　東京市麹町區内幸町一ノ二　東拓ビル
發行者　田辺宗
印刷所　凸版印刷株式會社　東京市下谷區長町一番地

・昭和十五年九月・